

OYASIKI-SITE

小屋敷遺跡

—第2次発掘調査—

宅地造成開発事業に伴う埋蔵文化財発掘調査



2001.12
小屋敷遺跡調査団
長坂町教育委員会

OYASIKI-SITE

小屋敷遺跡

—第2次発掘調査—

宅地造成開発事業に伴う埋蔵文化財発掘調査

2001. 12

小屋敷遺跡調査団

長坂町教育委員会

序

八ヶ岳南麓は、縄文時代から中世に至るまでの遺跡が密集する地域として知られています。この南麓のほぼ中央に位置する長坂町は3万年前の遺跡の存在する、山梨県内でも最古の遺跡が眠る町です。

長坂町はここ数年、他地域から移り住む人が多く、各地区で宅地造成及び個人住宅建設が行われています。

本報告書も、大八田地区の宅地造成に先立ち発掘調査を実施した小屋敷遺跡の調査結果を記したものであります。今回の調査区の北側では、1991年度に山梨県営圃場整備事業に伴う発掘調査が行われており、縄文時代中期末葉の遺構・遺物、中世の遺構・遺物が数多く発見されました。今回は小屋敷遺跡の第2次調査にあたり、縄文時代前期初頭の遺構・遺物、平安時代の住居跡・土器、溝等が発見されました。第1次調査と合わせて、今回の調査結果が、大八田地区あるいは長坂町の歴史の解明に役立つものと期待しております。本報告書が広く教育や研究の場において活用されることを望みます。

地域住民の皆様の多大なご理解のもとに発掘調査が完了したことを深く感謝するとともに、調査へのご指導、ご協力をいただいた関係機関・各位に深く御礼申し上げます。

2001年12月

小屋敷遺跡調査団
団長 濑戸龍徳

例　　言

凡　　例

1. 本書は、山梨県北巨摩郡長坂町大八田字道添地内に所在する小屋敷遺跡の発掘調査報告書である。

2. 発掘調査は宅地造成事業に伴い、株式会社ツツミと長坂町教育委員会とにより、小屋敷遺跡調査団を組織して行われた。調査団組織は以下のとおりである。

団長 小松清寿（長坂町教育委員会教育長、～H12.9）

瀬戸龍徳（　　〃、H12.10～）

副団長 植松 忠（長坂町教育委員会教育課長、～H12.3）

三井 茂（　　〃、H12.4～）

堤 文美（株式会社ツツミ代表取締役）

事務局長 小松武彦（長坂町教育委員会学校教育係長、～H12.7）

坂本美男（　　〃、H12.7～H13.3）

望月和夫（　　〃 社会教育係長、H13.4～）

事務局員 平島幸子（長坂町教育委員会主事）

主任調査員 村松佳幸（長坂町教育委員会学芸員）

3. 本書の編集及び執筆は村松佳幸が行った。

4. 発掘調査作業員及び整理作業員は以下のとおりである。

調査補助員 松田哲也（山梨大学大学院教育学研究科修士課程修了）

発掘作業員 横山享男 小林松男 堀原袈裟重 小林裕 小林立枝 小林敏恵 秋山かつえ 煙梅子 小尾トヨ子

整理作業員 橋本はるみ 奈良裕子 小林広美 長田加代子 石川昭江 清水純代 日向登茂子 橋本彩有野（大木）明子

5. 発掘調査において、基準点測量及びグリッド杭打設を㈱フジテクノに委託した。

6. 発掘調査、整理作業によって作成された図面・写真及び出土遺物等は長坂町教育委員会に保管している。

7. 発掘調査及び整理作業・報告書作成にあたり、以下の方々のご指導・ご助言を賜った。記して感謝申し上げます。（敬称略）

小野正文・森原明廣（山梨県教育庁学術文化財課）、保坂康夫（山梨県埋蔵文化財センター）、北巨摩市町村文化財担当者会々員諸氏

1. 掲載した図面の縮尺は、原則として下記のとおりである。

住居跡 1/60 竪穴 1/60 土坑 1/30

溝 1/120 ピット群 1/60

繩文土器 1/3 石鏃・搔器・削器 2/3

磨石・礫器・打製石斧・横刃形石器 1/3

石皿 1/6

平安時代以降の土器・陶磁器 1/4

2. 第1図は、株式会社写測2000年調製、1/25,000長坂町全国（国土地理院発行1/25,000地形図を複製したもの）を基に作成した。

3. 第2図は、国際航業株式会社1994年作成2000年修正、1/10,000長坂町全図を基に作成した。

4. 遺物出土状況図のマークは以下のとおりである。

●=土器 ▲・△=石

5. 遺物実測図のアミフセは以下のとおりである。

縦維土器 石器使用面
黒色土器 陶磁器

6. 拓影図で両面を載せてあるものは、断面左側が外面、右側が内面である。

7. 遺構及び遺物写真の縮尺は統一されていない。

8. 遺構図中の断面図脇にある数値は標高を示す。

目 次

序

例言・凡例

本文目次・挿図目次・表目次・写真図版目次

第1章 調査の経緯と概要	1
1 調査に至る経緯 2 調査の概要	
第2章 遺跡周辺の環境	1
1 自然環境 2 周辺の遺跡	
第3章 発見された遺構と遺物	2
1 基本層序 2 遺構と遺物	
第4章 調査の成果と課題	4
参考文献	6

挿図目次

第1図 小屋敷遺跡周辺遺跡分布図	7
第2図 小屋敷遺跡調査区位置図	8
第3図 小屋敷遺跡E区全体図	9
第4図 調査区北壁・南壁土層断面図	9
第5図 1号竪穴	11
第6図 1号竪穴遺物出土状況	12
第7図 2号竪穴	13
第8図 2号竪穴遺物出土状況	14
第9図 1号住居跡・1号住居跡遺物出土状況	15
第10図 2号住居跡・2号住居跡カマド	16
第11図 1・2・3・5・6・16号土坑	17
第12図 4・7・8・9・10・11・24号土坑	18
第13図 1・2・3号溝	19
第14図 1・2・3号溝土層断面図 G-6・H-6 グリッドピット群	20
第15図 1号竪穴出土遺物	21
第16図 2号竪穴・1号土坑・1・2号住・1~3号 溝出土遺物	22
第17図 3号溝・遺構外出土遺物	23
第18図 遺構外出土遺物	24
第19図 遺構外出土遺物	25
第20図 遺構外出土遺物	26
第21図 遺構外出土遺物	27
第22図 遺物分布状況(繩文土器)	28
第23図 遺物分布状況(石器)	29
第24図 遺物分布状況(他の土器)	30

表 目 次

第1表 遺跡地名表	7
第2表 土坑・ピット一覧	31
第3表 繩文土器観察表	32

第4表 石器観察表	35
第5表 その他の土器観察表	36
第6表 繩文土器遺構別出土一覧	38
第7表 石器遺構別出土一覧	39
第8表 その他の土器遺構別出土一覧	40

写真図版目次

図版1 調査区全景(南より)	
図版2 調査区全景(東より) 調査区全景(真上より)	
図版3 調査区中央 調査区東側 調査区北壁セクション(1号溝)	
図版4 1号竪穴(北東より) 1号竪穴・1号土坑(南 より)	
図版5 2号竪穴(南東より) 2号竪穴(北東より)	
図版6 1号住(南より) 1号住(北より)	
図版7 2号住(南西より) 2号住(北西より)	
2号住カマド(南西より) 2号住坪出土状況	
図版8 1号土坑(東より) 2号土坑(北より)	
3号土坑(西より) 3号土坑(東より)	
4号土坑(東より) 5・6・7号土坑(南東 より) 8号土坑(南より) 9号土坑(南より)	
図版9 10号土坑(南より) 11号土坑(南より) 24号土坑(西より) 3号溝南側(北より)	
3号溝東側ピット群(北より) 3号溝東側ピ ット群(南より) 3号溝東側ピット群(北西 より) 3号溝東側ピット群(北西より)	
図版10 2号トレンチ(西より) 3号トレンチ(西よ り) 4号トレンチ(西より) 秋田小学校遺 跡見学授業① 秋田小学校遺跡見学授業②	
図版11 1号竪穴出土土器① 1号竪穴出土土器②	
図版12 2号竪穴出土土器 1号土坑・1~3号溝出土土器	
図版13 遺構外出土土器① 遺構外出土土器②	
図版14 遺構外出土土器③ 遺構外出土土器④	
図版15 遺構外出土土器⑤ 遺構外出土土器⑥	
図版16 2号住出土土器 3号溝出土土器① 3号溝出 出土土器② 遺構外出土土器① 遺構外出土土器 ② 遺構外出土土器③ 1号住・3号溝出土土器 ③ 3号溝出土土器④ 遺構外出土土器④	
図版17 1・2号竪穴出土石器 遺構外出土石器① 遺構外出土石器② 遺構外出土石器③ チャート 黒曜石原石 1号竪穴出土石器 2号竪穴出土石器	
図版18 遺構外出土石器④ 1号竪穴出土黒曜石 木島式① 木島式② 木島式③ 隆帯付土器 第20図遺構外1の内側	

第1章 調査の経緯と概要

1 調査に至る経緯

平成11年1月28日に株式会社ツツミから、山梨県北巨摩郡長坂町大八田地内の1,693m²に、宅地造成開発の中請があった。当該地域は平成3年に長坂町教育委員会が発掘調査した小屋敷遺跡の隣接地域であるために、長坂町教育委員会では埋蔵文化財の存在する可能性があると判断して、平成11年2月に確認調査を行った。確認調査の結果、平安時代の堅穴住居跡や縄文時代後期の土器・石器、平安時代の土器師が発見されたので、株式会社ツツミと長坂町教育委員会の二者で協議検討を行い、文化財保護法に基づき宅地造成開発の事前発掘調査を実施することになった。

調査にあたっては、株式会社ツツミと長坂町教育委員会の二者により、教育長小松清寿（当時）を団長とする小屋敷遺跡調査団を結成し、調査主体とすることを取り決めた。調査組織の構成は例旨を参照されたい。

発掘調査は平成11年4月27日～7月2日まで行った。なお発掘調査にあたっては、村松とともに松田拓也が調査補助員として発掘調査の指導を行った。

2 調査の概要

平成3年度の発掘調査でA～Dまで調査区名が付けられていたので、今回の調査区はE区とし、発掘調査を実施した。調査面積は1,050m²である。そこに発掘調査・遺構測量の基準として5m間隔のグリッドを設定し、南から北方向に1～8、西から東方向にA～Hとグリッド番号を付けた。

調査はまず始めに重機によって遺構確認面を覆っている表土（畑の耕作土）を剥ぎ取り、次に人力で丁寧に遺構確認面の精査を行い、遺構確認を行った。遺物については必要なものを出土原位置で記録・取り上げ作業を行い、それ以外のものについては各グリッド一括として取り上げた。その後、土層断面図・遺物出土状況図・遺構図・遺物出土状況写真・遺構写真等を図化・撮影し、調査を完了した。

調査区の西半分に関しては、東側が表土剥ぎの段階で地山が見えていたのに対し、黒褐色土に覆われており、5ヶ所トレンチを設定し掘り下けたところ、拳大の礫をはじめ1m大の巨礫が密集していた。遺物はその礫屑の上部から出土しており、数も少ないので、流れ込んだものと判断し、調査予算・調査期間等の関係で、それ以上はトレンチを広げなかつた。

調査結果は、巻末の発掘調査抄録を参照されたい。

第2章 遺跡周辺の環境

1 自然環境

本遺跡は山梨県北巨摩郡長坂町大八田字道添に所在する。長坂町は八ヶ岳南麓に位置する南北に細長い町であり、本遺跡のある大八田地区は町の中央部東側に位置し、中央自動車道長坂インターチェンジがある。

大八田地区は北から南へ緩傾斜する低地であり、八ヶ岳から放射状に流下する河川の氾濫原で、川の浸食が進まず谷の形成がみられない。古くから広い水田が発達していたところであり、「大八田二千石」と言われていた。大八田地区から西の地域では、河川の浸食が激しく谷を形成しており、至る所で尾根状台地が発達している。大八田地区から東側は、大泉村南部・高根町西部となり、谷の形成がみられない緩傾斜地域が広がる。大八田地区はちょうど谷形成地域と緩傾斜地域との変換点に位置すると言えよう。

本遺跡は緩傾斜地域の西端を流れる鳩川の左岸に位置する。現在の河床から2段高くなった段丘面に立地し、宅地になるまでは畠地として利用されていた。

2 周辺の遺跡

本遺跡の周辺には非常に多くの遺跡が分布している。縄文時代では柳新居遺跡で中期前半の集落跡が、柳坪A・B両遺跡では中期後半の集落跡がそれぞれ発掘調査されている。柳坪A・B遺跡では、住居跡内から曾利式土器がまとまって出土しており、曾利式土器編年の研究に欠くことのできない遺跡である。別当西遺跡や原田遺跡は後期の集落跡が調査されている。

さらに周辺を見渡すと、前期後半の天神遺跡、中・後期の姥神遺跡、後・晚期の国史跡金生遺跡など、八ヶ岳南麓を代表する縄文時代の遺跡群が数多く分布する。

弥生時代から古墳時代の遺跡は少ないものの、柳坪A遺跡で弥生中期初頭の住居跡と古墳前期の集落、境原遺跡で、弥生後期前半土器の出土例があり、今後に遺跡数の増加が予想される。平安時代になると遺跡数は急増し、大八田地区的集落遺跡調査事例だけでも南新居西遺跡、小和田館跡、原田遺跡、柳坪A・B両遺跡、柳坪南遺跡、境原遺跡、石原田北遺跡が挙げられる。中世・戦国時代では国人領主層の館とそれをとりまく集落が確認され、3箇所から埋蔵線が出土した小和田館跡、堀と土塁が良好に遺存する県指定史跡深草館跡がある。

第3章 発見された遺構と遺物

1 基本層序

今回の調査区では、東側と西側とで基本土層が異なっている(第4図参照)。畑の耕作土の下には暗褐色土層が堆積している。東側では直ぐに小礫を含む黄褐色土層になるのだが、西側ではその層が下に潜り込み、その上に大礫を含む暗褐色土層や黒褐色土層が乗っている。現在調査区の西側を流れる鳩川の浸食により調査区西側部が低くなっているところに、大礫を含む暗褐色土層が堆積したと考えられる。

2 遺構と遺物

1号竪穴

(位置) F-4・G-4グリッド。(重複) 2号土坑と重複。(形状) 不整な楕円形を呈す。(規模) 長軸4.23m×短軸3.34m×深さ9~26cmである。遺構の壁は緩やかに立ち上がる所と急に立ち上がる所がある。(床面) 硬化面は確認できず、凸凹が激しい。地山自体にも礫が多量に含まれており、その影響も考えられる。(施設) 炉跡や焼土は確認できなかった。

(遺物) 第15図。縄文時代前期初頭の土器が出土し、各土器の詳細は第3表に譲る。1~14は木島式であり、渋谷昌彦氏の編年(渋谷1982、以下渋谷編年という)の木島V式と考えられる。一部IVあるいはVI式に含まれる可能性のあるものもある。5は折り返し口縁で、口縁外側に矢羽状文が施されている。施文されている辺縁は、他の土器に見られるような、橢円状工具で施す細く深いものではなく、木端のようなものでやや幅広く浅いものである。この土器に限らず、他の折り返し口縁の土器も、先端が木端のような施文で施文している。

15~25は繊維土器で、15・16は隆帯上と口唇部に工具圧痕があり、17~23は縄文が施されており、24・25は無文である。26~31は繊維を含まない土器であるが、27・28は隆帯があり、その上と口唇部に工具圧痕が施されていることから、15・16と同じものと考えられる。

石器は石鐵2点、削器1点、搔器3点、礫器1点、磨石1点の合計8点出土し、そのうち石鐵、礫器、磨石を図示した。黒曜石製の剥片・石核・原石も多数出土している。また、G-4グリッド出土の石器、剥片が多いが、ここは1号竪穴とはば重なるので、1号竪穴出土のものと考えていいであろう。

(時期) 出土土器から縄文時代前期初頭の木島V式期であろう。

2号竪穴

(位置) G-1・G-2・H-1・H-2グリッド。(重複) 18~24号土坑と重複する。(形状) 南側の一部が調査区外にかかり、全体の平面形は確認できなかったが、円形と思われる。(規模) 調査部分で、長軸4.85m×短軸4.55m×深さ5~29cmである。遺構の壁は皿状に立ち上がる。

(床面) 硬化面は確認できず、凸凹が激しい。ピットが多数確認できたが、主柱穴のようなしっかりとした柱穴は確認できず、どれも小さいピットであった。配置も不規則でバラバラなので、全てのピットが2号竪穴に伴うとは言い切れない。(施設) 炉跡や焼土は確認できなかった。

(遺物) 第16図。縄文時代前期初頭の土器が出土した。1~4は木島V式であろう。5・6は繊維土器である。7は外面が無文だが、内面に条痕が施されている。

石器は石鐵4点、削器1点、搔器1点、磨石1点の合計7点出土している。そのうち石鐵4点と磨石1点を図示した。1号竪穴の出土量と比べると、土器・剥片等石器以外の遺物の出土量にかなりの差がある。

(時期) 出土遺物から縄文時代前期初頭の木島V式期と考えられる。

1号住居跡

(位置) H-3・H-4グリッド。(重複) 住居跡東側は調査区外になり、調査できなかった。(形状) 方形。(規模) 調査部分で長軸5.7m×短軸2.7m×深さ5~20cmである。(床面) 貼り床や硬化面は確認できず、遺構を構築した層が粘土の礫を多く含むこともあり、凸凹が激しい。(施設) 調査部分に関しては、周溝が部分的に確認されただけである。この地域の住居跡はカマドを東壁に設置することが多いので、東側の調査区外にカマドがあると思われる。

(遺物) 1は内面に暗文をもつ甲斐型壺である。2は体部下半にヘラケズリのある甕と思われる。3は須恵器の高台坏と思われ、高台の外側周辺を故意に打ち欠いている。おそらく硯に転用されたものであろう。(時期) 平安時代。第16図1号住1より甲斐型編年X期以前と考えられ、周辺の平安時代遺跡の傾向からV~X期の間に當まれていたであろう。

2号住居跡

(位置) E-4・F-3・F-4グリッド。(重複) 東側が1号溝に切られている。南へ緩やかに傾斜している地形の関係で、南半分は後世の擾乱を受け、削平されていた。住居内の9号土坑は、近世以降の陶磁器片が出土し

ているので、2号住よりも新しい。(形状)隅丸方形。(規模)残存部で長軸4.1m×短軸2.3m×深さ14~18cmである。(床面)1号住と同じく、貼り床・硬化面は確認できず、凸凹が激しい。(施設)カマドが東壁に確認できたが、1号溝や・後世の擾乱を受けており、かろうじて焼土を残すのみであった。粘土や礫といったカマドの構築物は確認できなかった。

(遺物)第16図2号住1の甲斐型坏が、住居西壁中央に伏した状態で出土しているのみである。

(時期)第16図2号住1の甲斐型坏から甲斐型編年理期・宮ノ前編年VII期と考えられる。炭年代にすると9世纪中頃(およそ820年~840年)と考えられる。

1号溝

(位置)F-1~6・G-5~7グリッド。(重複)2号住居跡を切っている。また、9号土坑・30号土坑に切られている。(形状)わずかに曲がっている。溝の壁は緩やかに立ち上がっている。調査区中央部から南にかけて東脇に幅30~50cm×深さ5~15cmの細い溝が沿うように作られている。(規模)調査区の東側を、やや東に傾きながら南北方向に貫いている。その長さは調査区内で30.9mあり、北端で幅76cm×深さ13.9cm、中央で幅135cm×深さ16.5cm、南端で幅132cm×深さ17cmを測る。

(遺物)平安時代の土師器、黒曜石などが出土しているが、流れ込みと考えられ、遺構に作る遺物はない。1は縄文時代の織維土器である。

(時期)9世纪中頃の2号住を切っているので、9世纪後半以降の構築と考えられる。(備考)溝の下層から砂利や礫の堆積が確認され、水が流れていたと考えられる。

2号溝

(位置)E-2~6・F-4~7グリッド。1号溝の西側約5mの所をほぼ平行に走っている。(重複)3号土坑・4号土坑と重複する。(形状)わずかに曲がっている。調査区北端では2本の溝であるが、F-7グリッドで1本になる。壁の立ち上がりも緩やかであり、1号溝と似ている。(規模)長さは調査区内で28.1m、北端で東側の溝は幅52cm×深さ7.9cm、西側の溝は幅50cm×深さ16.5cmであり、中央で幅123cm×深さ13cm、南端で幅98cm×深さ18cmを測る。

(遺物)土器片が若干出土しているが、時期決定には至らない。1~4は縄文土器であり、5は平安時代の坏と思われる。

(時期)不明であるが、1号溝と平行しているので、同時期に存在した可能性もある。(備考)1号溝と同じ

く、溝の下層は砂利や礫で覆われており、水が通った跡と考えられる。

3号溝

(位置)D-2~6・E-2~6グリッド。3号溝は調査区を貫いてはおらず、北側では、溝の東側の壁しか確認できない。D-6・E-6グリッドから西側の壁が見え始め溝状になり、1・2号溝の西側を南北に平行して走っている。言い換えると、調査区中央に南北に走る地形の落ち込みを利用して、溝を作り出している。(重複)特になし。(形状)やや蛇行しているが、全体を見ると直線的である。(規模)溝の始まりから調査区南端までは21.7mであり、中央部で幅345cm×深さ46cm、南端で幅255cm×深さ43cmである。1・2号溝と比べると幅広で深い。壁は少しきつく立ち上がっている。

(遺物)1~6は縄文時代の土器で、1が木島式、2が織維土器である。7は縄文時代の石皿で、覆土の中層から出土している。平安時代の遺物は、土師器・黒色土器・須恵器・灰釉陶器等多数出土し、甲斐型坏を見ると暗文のあるものと無いものがあり、時代に幅があると考えられる。

(時期)平安時代以降であろう。1・2号溝と平行しているので、同時期に存在した可能性も考えられる。(備考)1・2号溝と同じく、溝の下層は砂利や礫の堆積であり、水が流れていたと考えられる。その層から平安時代の土師器・黒色土器・灰釉陶器が出土している。また、中央東側に19個のピットが確認され、一部「ハ」の字状に配置されているので、何かの遺構が存在していた可能性がある。3号溝は水の流れていたと考えられるので、水場として利用されていたのか、あるいは橋のようなものが架かっていたのかもしれない。3号溝のピットの計測値は以下のとおりである(数値は長径×短径×深さの順、単位はcm)。

P 1	70×63×22.8	P 2	34×22×13.1
P 3	20×18×9.7	P 4	38×32×28.5
P 5	38×36×20.7	P 6	51×35×36.2
P 7	39×28×8.7	P 8	55×38×54.4
P 9	33×29×37.9	P 10	34×28×44.7
P 11	18×18×18	P 12	24×17×33.6
P 13	22×21×19.5	P 14	45×33×47.9
P 15	42×40×65.7	P 16	36×19×29
P 17	28×18×18	P 18	80×53×72.8
P 19	84×48×28.6		

土 坑

1号溝の東側には土坑が数基確認されてはいるが、ほとんどがピットである。1号溝と2号溝との間に土坑が多く確認されている。2号溝と3号溝の間には、3号溝に伴うと考えられるピットしか存在しない。

各土坑の詳細は第2表を参照されたい。1号土坑からは第16図1号土坑1・2が出土している。両者とも木島式であり、1は折り返し口縁である。

24号土坑は2号竪穴の東隣に位置し、2号竪穴に切らされているので、縄文時代前期初頭以前のものである。

遺構外出土遺物

各遺物の詳細は第3~5表に譲り、特筆すべき点を述べる。第17図遺構外3・4は1号竪穴出土のものと同じで折り返し口縁である。やはり、木端のような施文具で施文されている。第21図遺構外190は柱状高台皿である。柱状高台皿の出現は11世紀後葉以降であるので、遺構は発見できなかつたが、本遺跡およびこの周辺はその時期まで利用されていたんだろう。

第4章 調査の成果と課題

今回の調査で小屋敷遺跡からは、主に縄文時代・平安時代の遺構・遺物が発見された。ここでは各時代の特徴を述べ、まとめとしたい。

縄文時代の土地利用について

平成3年度調査において縄文時代では中期初頭の住居跡や中期末の土坑群が発見され、前期末・中期初頭から中期末までの土器が出土している。特に中期末の土器群は、関東の加曾利E式の新しい段階のものと類似した資料がまとまって出土し、出土量を比べると曾利式土器の5倍以上あり、山梨県内でも特異な様相を呈している。中期末の曾利式と加曾利E式との関係を探る上で重要な資料となっている。

しかし、今回のE区の調査では中期の土器は出土してはいるがほんのわずかで、そのほとんどが前期初頭の土器である。こうしてみると、小屋敷遺跡の中でも縄文時代の土地利用の相違が見えてくる。すなわち、遺跡南側のE区からは前期初頭の竪穴・土器が、遺跡中央のB区南(第2図)からは中期初頭の住居跡・土器が、遺跡北側のC区東(第2図)からは中期末の土坑群・土器がそれぞれ出土し、本遺跡内において、時期が新しくなるにつれ生活場所が北上していく傾向にある。参考ではあるが、後期あるいは晩期になると、さらに1~2km上流に

別当西遺跡・金生遺跡が存在する。

縄文時代前期初頭の土器群について

出土した縄文時代の土器は、そのほとんどが前期初頭に位置付けられるものである。縄文時代と判明した土器273点の内260点が前期初頭のもので、95.2%にも上る。その前期初頭土器の内、繊維を含む土器が34点(13.1%)、繊維を含まない土器が89点(34.2%)、木島式が137点(52.7%)となり、木島式が半分以上占める(重量は、木島式が重い土器で他の土器より軽いため、比較が難しい)。周辺の遺跡でも木島式+繊維土器・無繊維土器という組成がみられる。その数量の詳細な報告がないので概には言えないかもしれないが、木島式が主体となる遺跡は少なく、本遺跡の特徴といえるであろう。

繊維土器は34点出土し、その内訳は繊文を施されたものの11点(32.4%)、条痕文を施されたもの8点(23.5%)、無文のものの15点(44.1%)である。

無繊維土器は89点出土し、条痕文を施されたもの55点(61.8%)、沈線文を施されたもの7点(7.9%)、隆帯があるものの11点(12.3%)、無文のものの16点(18.0%)となる。条痕文を施されたものが多く、その中で第18図70・77・78は繊維土器の条痕文と同じ条痕なので、同型式と考えられる。

木島式は137点出土している。1号竪穴からは、粘土紐間に櫛曲状工具で横筋に沈線を施す渋谷編年木島V式(第15図1・2・5・6・7・8)が出土している。また、口唇部に指頭圧痕が施されているもの(第15図3)も出土しているが、この土器は木島V-VI式の中に含まれると思われる。

遺構外からは、粘土紐の上から櫛曲状工具の縱位沈線を施すIV式とV式が出土している。

木島V式では、第15図5、第16図1号土坑1、第17図遺構外3・4が折り返し口縁になっている。このような口縁部は、菅見の限り県内には出土していない。これらの土器は口縁部だけでなく、施文具も他の土器と違っている。よく見られる櫛曲状工具は、先端が尖っていて、細く深い沈線になるのだが、折り返し口縁の土器の工具は先端が尖らず木端のように平らになっていると思われ、沈線は幅広く浅いものである。施文具の違いが何を意味するのであろうか。資料の増加を待ちたい。

縄文土器の分布状況については、1号竪穴及びその周辺のG-4グリッドと5号トレンチからの出土が際立っており、その他は散在している。ただし、無繊維の条痕文土器は他の土器とは違ったC・E・F列からの出土が目立つ(第22図)。無繊維条痕文土器の使用及び廃棄の様相

が、他の土器のそれと異なる可能性がある。

縄文時代の石器について

石器は剥片も含めて総数868点出土している。製品としては石鏃・石錐・削器・搔器・打製石斧・横刃形石器・礫器・磨石・石皿がある。なお、この中で、剥片の側縁に押圧剝離による連続的な調整によって刃部を作り出した石器を削器に、急角度に調整された刃部を持つ石器を搔器に、刃部を作り出すまでには至らない調整をされた剥片を2次加工のある剥片として分類した。

石鏃は、製品の中で最も数多く出土している。形態は無茎四基が多いが、中には1号竪穴から出土した第15図32のように有茎縫もある。他の前期初頭の遺跡から出土した石鏃と比べると、形態がバラエティに富んでいる。第16図2号竪穴9、第20図150・151・152・153のような側縁が内湾し脚部が角張る形態もあれば、第20図148・149・159・165・166のようななんぐりとした形態のものもある。必ずしも全ての石鏃が同時期のものであるとは言えないが、小屋敷遺跡の一つの特徴であろう。縄文時代早期末～前期前半の遺跡である火月市原平遺跡・同市中溝遺跡・白州町新居道上遺跡・上北田遺跡の石鏃はこれほど形態的に差はなく、割と似たような石鏃がそれぞれ出土している。

石錐はつまみのあるものと棒状のものがある。搔器・削器は形態的にはバラバラで、定形化されていない。

遺構外あるいは溝から出土している打製石斧・横刃形石器・石皿は前期初頭のものではなく、中期以降のものと考えられる。

チャート製の石器と剥片も小屋敷遺跡から出土している。黒曜石845個(1609.9g)に対して、17個(68.6g)とごくわずかだが出土している。この時期に限らず、他の時期でも多量の黒曜石の中にわずかなチャートが出土することがよくある。黒曜石庵に近く入手しやすいであろう八ヶ岳南麓地域でもチャートを必要とするのはなぜであろう。今後、他の遺跡でのチャートの在り方を調べていく必要がある。

石器の分布状況は、石鏃・削器・搔器の製品は1号竪穴と2号竪穴とその間から出土している(第23図)。黒曜石剥片は1号竪穴と2号竪穴はもちろんだが、その周辺の調査区南東部にかけて広範囲に出土している。チャートは製品と同じ分布をしている。

その他

1号竪穴と2号竪穴では、土器・黒曜石片の出土量の違いが見られる。第6・7表でみると1号竪穴もあり

遺物出土量が多く感じられないが、遺構外として取り上げたなかで、一番遺物が出土しているG-4グリッドに1号竪穴が位置するので、G-4グリッドの遺物のはほとんどが1号竪穴から出土しているものと考えて良いであろう。2号竪穴も、それが位置するG-1・2グリッドの遺物出土量を加えてみて比べると、

土 器	石 器
1号竪穴	79ヶ (851g) : 440ヶ (1846.2g)
2号竪穴	20ヶ (121g) : 65ヶ (913.8g)

となる。特に石器出土量の開きが大きい。石器のほとんどが黒曜石剥片であるので、1号竪穴の周辺で石器製作も行われていたのであろう。

北巨摩地域の同じ時期の遺跡を見ると、同時期の事例として大泉村金生遺跡第2号住居跡がある(新津1989)。土器組成は含纖維土器(隆帯付き、羽状縞文)、無纖維土器(条痕)、木島式となっており、本遺跡とほぼ同じである。時期は、金生遺跡が木島IV式で、本遺跡が木島V式であるので、渋谷編年に従うと同時期になる。本遺跡は一部木島VI式も出土しているので、同時期と考えてよいであろう。出土石器は石鏃2点、打製石斧1点、磨石9点であり、石簇・磨石主体の少量出土と傾向は同じである。

同村甲ヶ原遺跡からは木島VII式期の住居跡が1軒発見されている(山本・今福1998)。34号住居跡がそれであるが、木島V式と鐵維土器を伴い、鐵維土器は縄文を施されたものが多く、条線や条痕を施されたものも数点出土している。

上記2遺跡の住居跡は、方形か方形に近い形態をしており、本遺跡の竪穴は不整横円形や円形を呈しているので、その点が違う。本遺跡の場合、焼土が確認できなかったので竪穴としているが、当時の人々の居住跡であることは違ひがない。土器組成も大きな差はないので、住居の形態差が何を意味するのか、今後の資料の蓄積を待って追求していくみたい。

また、蘿崎市上手沢遺跡(平野1998)・大泉村山崎第4遺跡(伊藤1998)・明野村寺前遺跡(秋山2000)からも前期初頭の住居跡が発見されており、須玉町塙川遺跡(森原1992)でも遺構は発見されていないが、木島式・纖維土器(縄文施紋、条痕施紋)が出土している。山梨県内でも、以前から勝沼町・一宮町駅迎堂遺跡・大月市原平遺跡で大規模集落が確認されていた(小野1986、杉本1997)。近年、原平遺跡・中溝遺跡(長沢1996)で新たに住居跡が発見され、徐々にではあるが資料が蓄積されている。本遺跡も前期初頭の様相を解明する上で貴重な資料となるであろう。

平安時代について

平安時代の遺構は住居跡が2軒発見された。1号住居跡は西半分しか調査できず、2号住居跡も東側を1号溝によって壊されているため、どちらも住居跡の全容が十分と把握できなかった。1号住居跡は甲斐型土器編年X期以前（おそらくVII-X期の間）、2号住居跡はVIII期と考えられる。八ヶ岳南麓ではVII期の住居跡はわずかであり、IX期以降急増する。2号住居跡は八ヶ岳進出の先駆けとなつた人々が住んでいたのであろう。

平安時代遺物の多くは3号溝から出土している。1～3号溝はほぼ等間隔で平行に走っているので、同時期か近い時期のものと考えられる。その中の1号溝が1号住居跡を壊しているので、3条の溝も9世紀後半以降のものであろう。

3号溝は、地形の落ち込みの上端ラインから外れるよう作り出されている。溝の下層には砂利や砂が堆積しており、水が流れていると考えられる。また、溝中央東岸にはピット群が確認でき、その一部が「ハ」の字状に開いている。想像になるが、平安時代には鳩川が鶴岡区西側付近を流れている、その鳩川の水を水稻耕作など生活に利用するために、川から水を引くように3号溝を作ったのではないであろうか。そして、ピット群は洗濯や水汲みなどをするための水場か、橋が架かっていた跡かもしれない。

各溝は、3号溝が初めて作られ、その後1・2号溝が平行するように作られたと考えるのが自然であろう。1・2号溝の間に土坑が集中するのも何か意味があるのだろうか。また、G・H・E-6グリッドにあるピット群の長軸も1号溝に直行するようであり、溝を意識して作られているかも知れない。時期決定できず、各遺構の同時存在が確定でないため、想像の域を越えないが、平行する溝やピット群の位置関係の類例を積み重ね、その性格を少しでも解明していきたい。

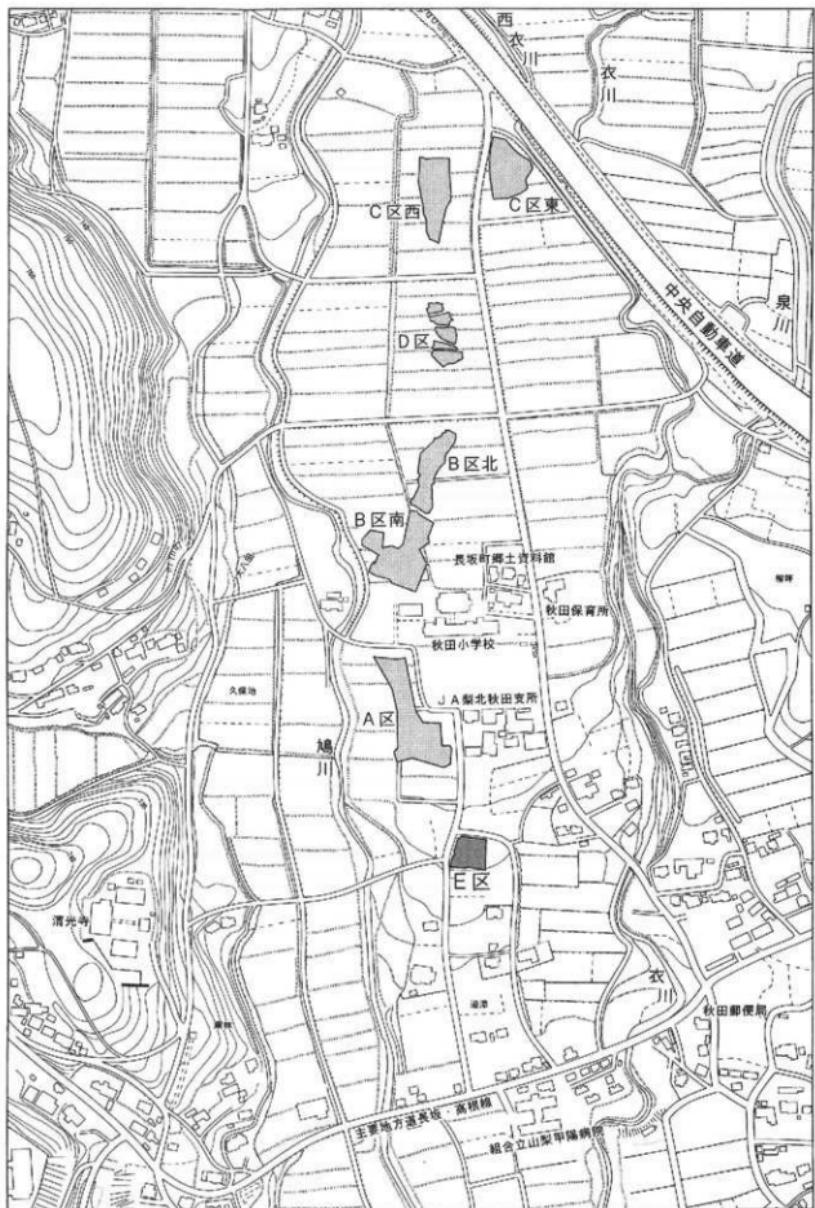
参考文献

- 佐野五十三他 1981『木島 静岡県富士川町木島遺跡第4次調査報告書』富士川町教育委員会
渋谷昌彦 1982『木島式土器の研究』『静岡県考古学研究』11 静岡県考古学会
増子康真 1982『木島式土器の検討』『中部高地の考古学II』長野県考古学会
小野正文 1983『縄文時代早期・前期初頭の土器について 一軒堂遺跡群を中心として』『研究紀要』1 山梨県埋蔵文化財センター
古谷健一郎 1984『神ノ木台式・下吉井式土器の変遷』

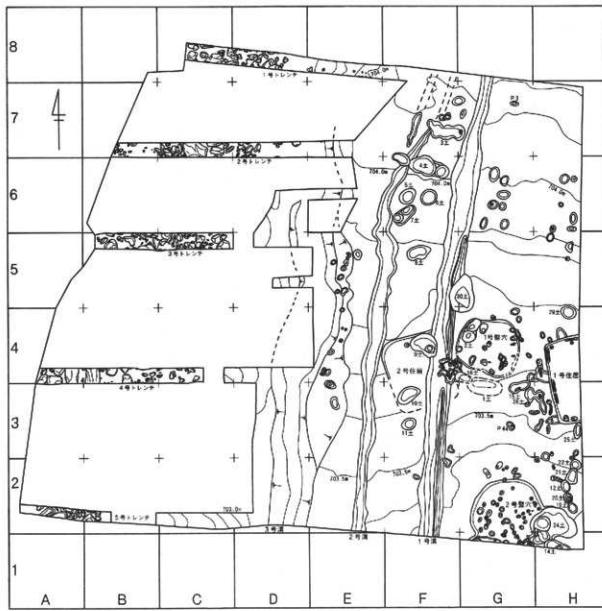
【丘陵】11 甲斐丘陵考古学研究会

- 吉田哲夫 1984『木島系土器群の研究』『考古学研究』第31卷第3号 考古学研究会
神奈川考古同人会 1984『シンポジウム縄文時代早期末・前期初頭の諸問題 記録・論考集』『神奈川考古』第18号
池谷信之他 1985『平沼次上遺跡発掘調査報告書』沼津市教育委員会
小野正文他 1986『駿迎堂I』山梨県教育委員会
新津 健他 1989『金生遺跡II(縄文時代編)』山梨県教育委員会
折井 敦 1991『上北田3遺跡 新居道上遺跡』白州町教育委員会
森原明廣他 1992『塩川遺跡』山梨県教育委員会
杉本充他 1993『上北田遺跡』白州町教育委員会
渋谷昌彦 1994『土器型式より見た縄文早期と前期との境について 一関東・中部・東海地方からの検討』『第7回縄文セミナーー早期終末・前期初頭の諸様相』縄文セミナーの会
谷藤保彦他編 1994『第7回縄文セミナーー早期終末・前期初頭の諸様相-記録集-』縄文セミナーの会
下平博行・鷲田 明 1994『長野県に於ける縄文前期初頭縄文系土器群の編年』『第7回縄文セミナーー早期終末・前期初頭の諸様相』縄文セミナーの会
小林広和他 1996『立石・宮の上遺跡』山梨県教育委員会
長沢宏昌 1996『中構遺跡・揚久保遺跡』山梨県教育委員会
杉本正文 1997『原平遺跡』『甲斐路』No.86—考古学特集号— 山梨郷土研究会
山本茂樹・今福利恵 1998『甲ッ原遺跡IV』山梨県教育委員会
平野 修 1998『上手沢遺跡』『山梨県史』資料編1 原始・古代1 山梨県
伊藤公明 1998『山崎第4遺跡』『山梨県史』資料編1 原始・古代1 山梨県
長沢宏昌他 1999『原平遺跡』山梨県教育委員会
小野正文 1999『第2章山梨県の考古学編年 2 縄文時代の編年 (4)前期』『山梨県史』資料編2 原始・古代2 山梨県
長沢宏昌 2000『山梨県における縄文時代早期末の様相 一国中地域と郡内地域-』『研究紀要』16 山梨県埋蔵文化財センター
秋山生子 2000『寺前遺跡』『山梨考古』第75号1999年度下半期遺跡調査発表会要旨 山梨県考古学協会

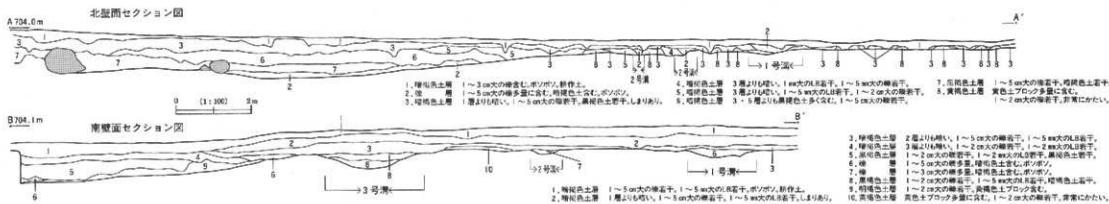




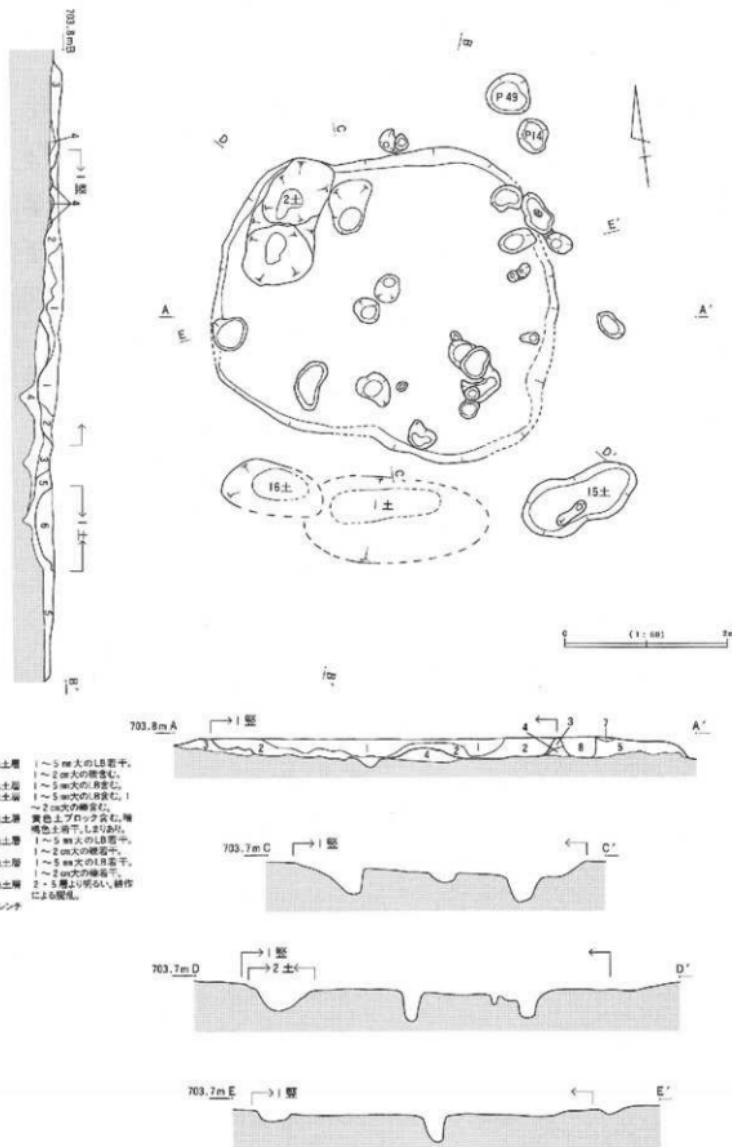
第2図 小屋敷遺跡調査区位置図



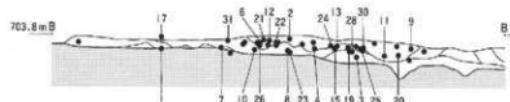
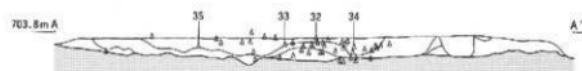
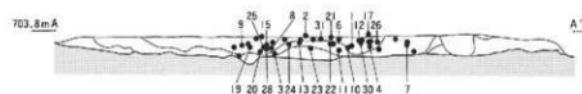
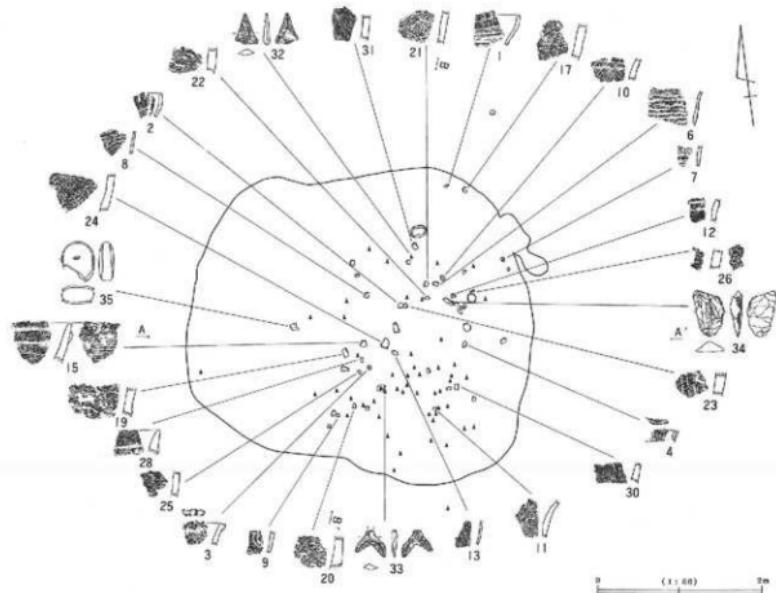
第3図 小星敷遺跡E区全体図(1/250)



第4図 調査区北壁・南壁土層断面図

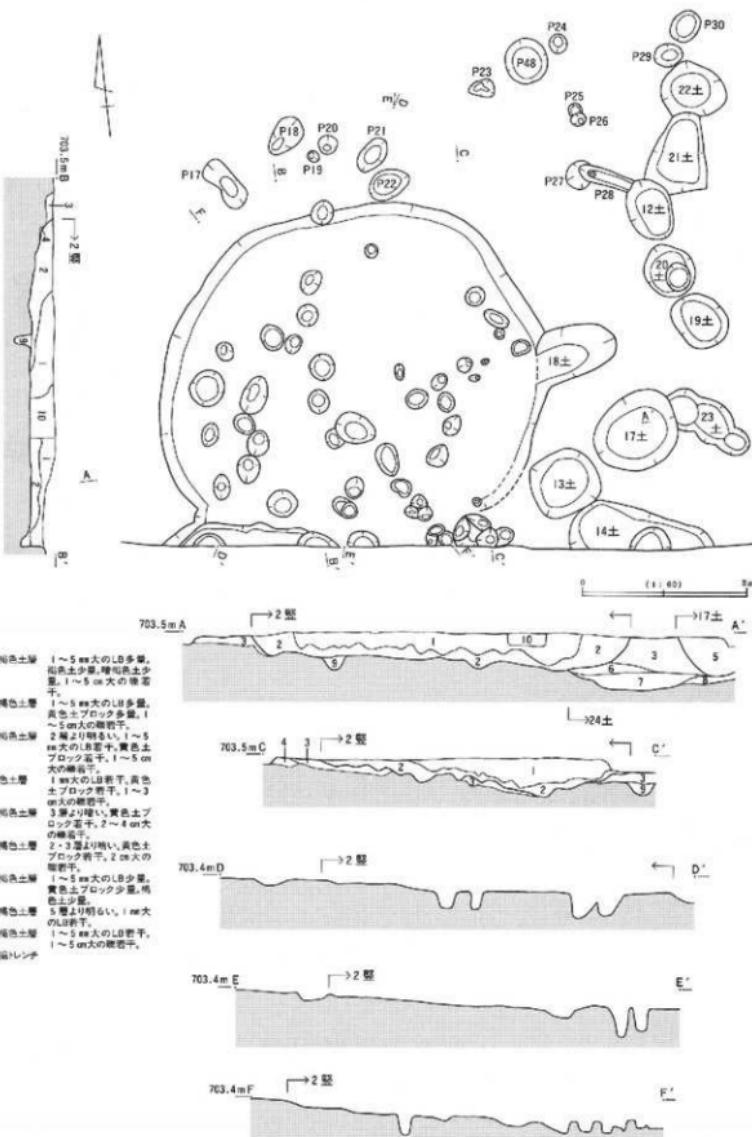


第5図 1号竖穴

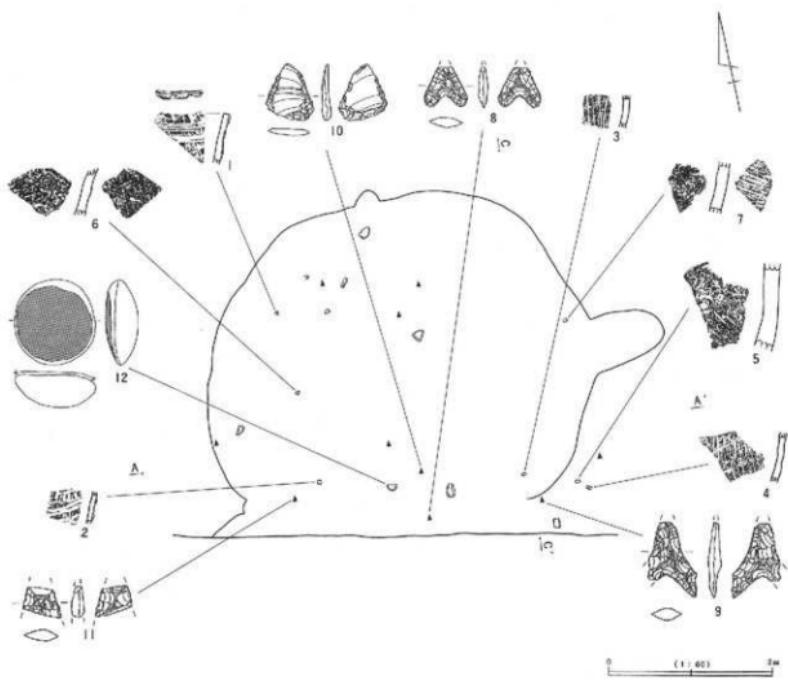


●=土器
▲=石

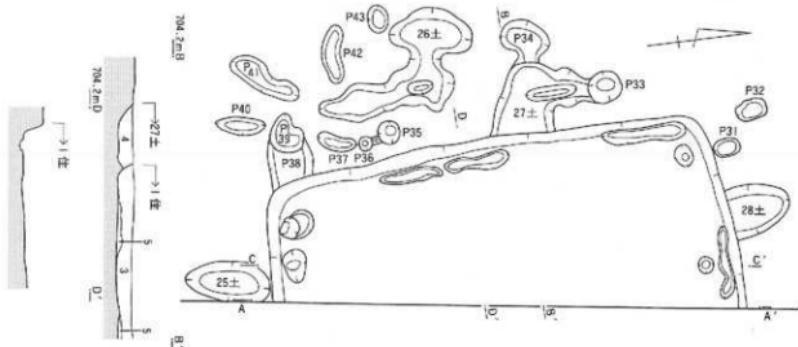
第6図 1号竖穴遺物出土状況



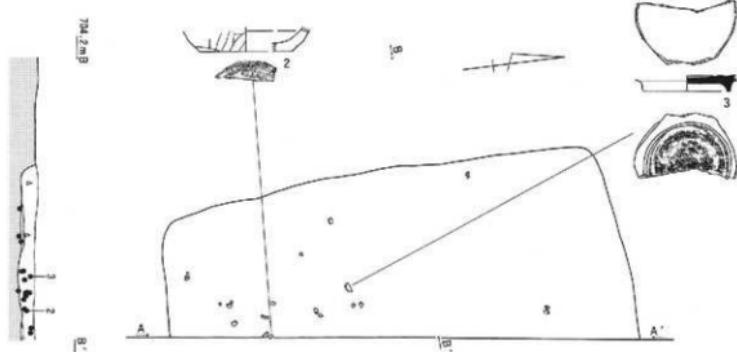
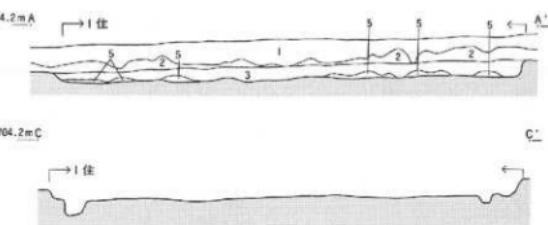
第7図 2号堅穴



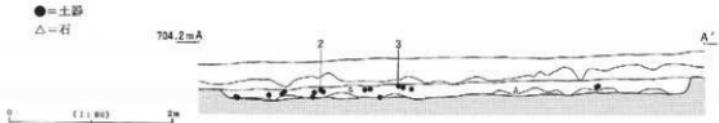
第8図 2号竪穴遺物出土状況



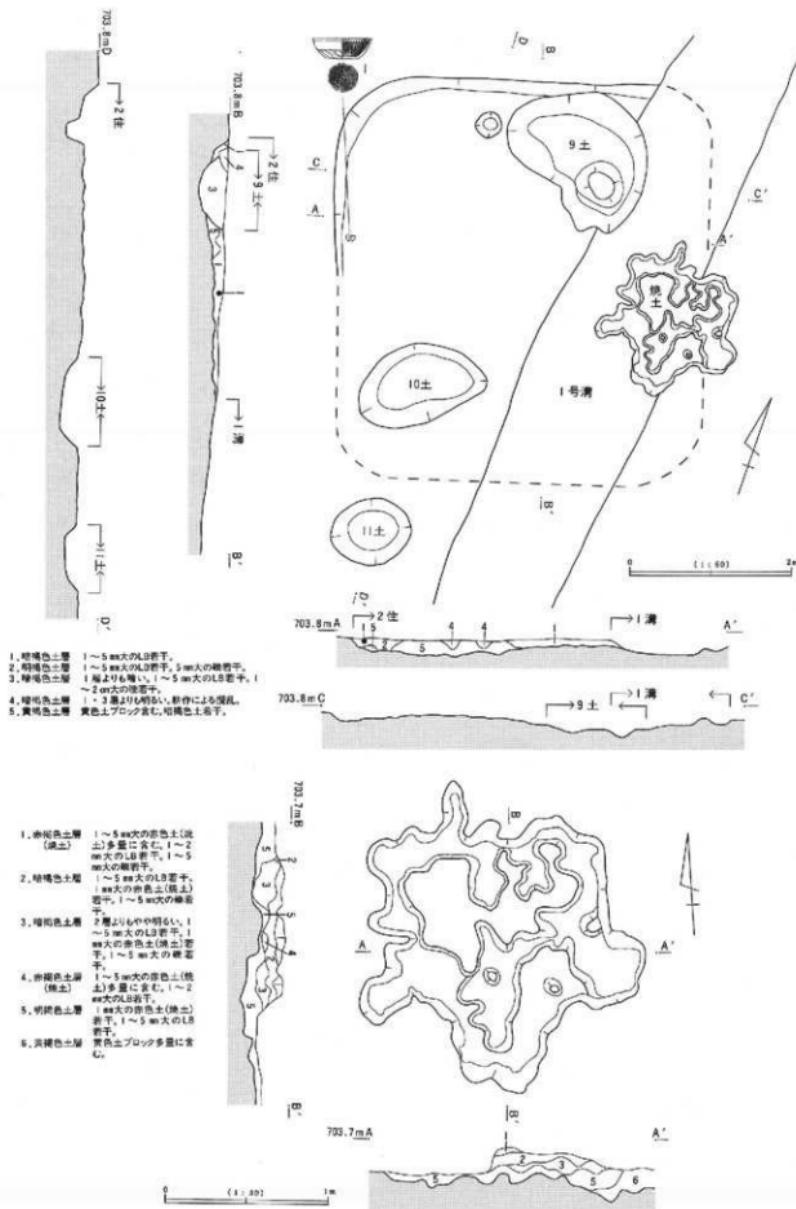
1. 増褐色土層 1～3 cmの大粒の細砂と、ボルトジン、耕作土。
2. 増褐色土層 1層より多い。1～3 cmの大粒の含むしまりある。
3. 増褐色土層 1～5 mmの大粒若干。1～3 cmの大粒の細砂。
4. 増褐色土層 3層より多い。1～5 mmの大粒の粗砂。1～3 cmの大粒の含む。
5. 菲褐色土層 黄褐色土ブロック含む。特徴土と土。



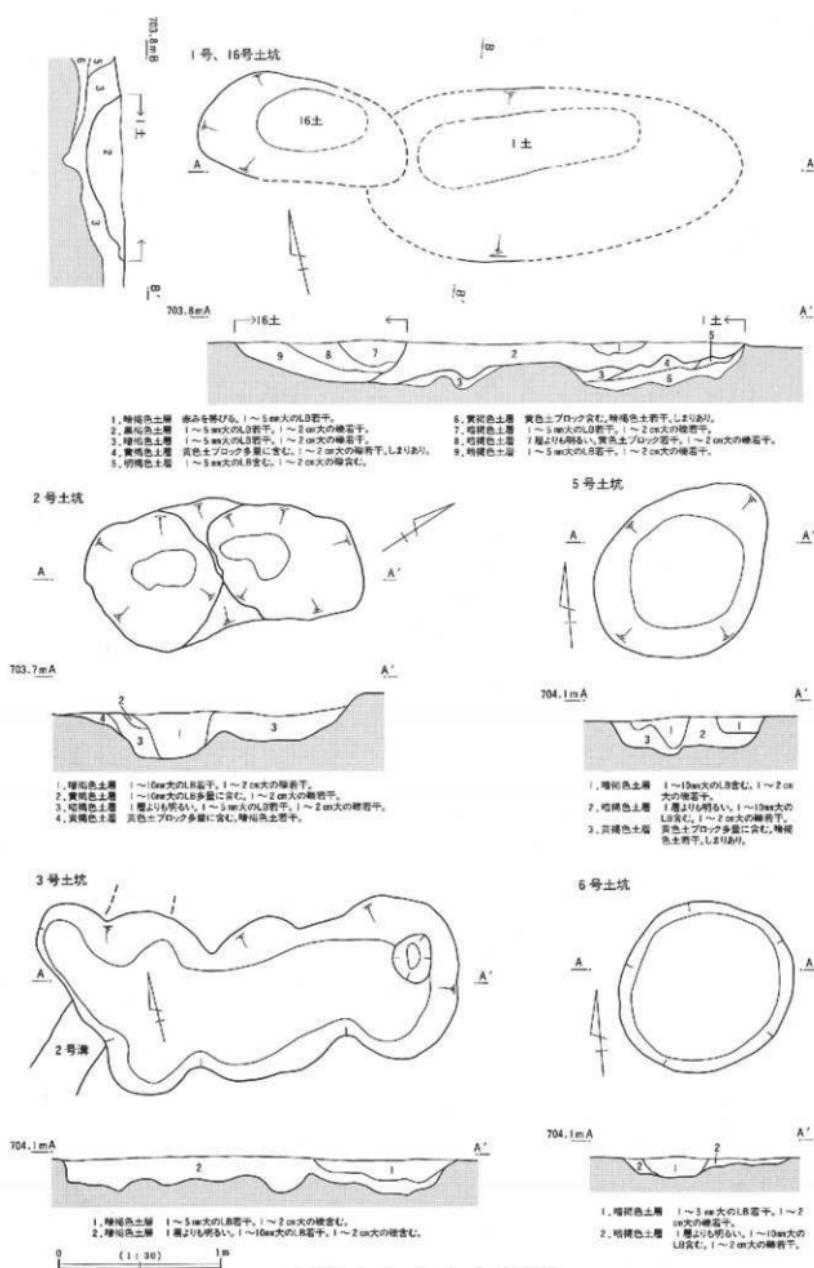
●=土砂
△=石



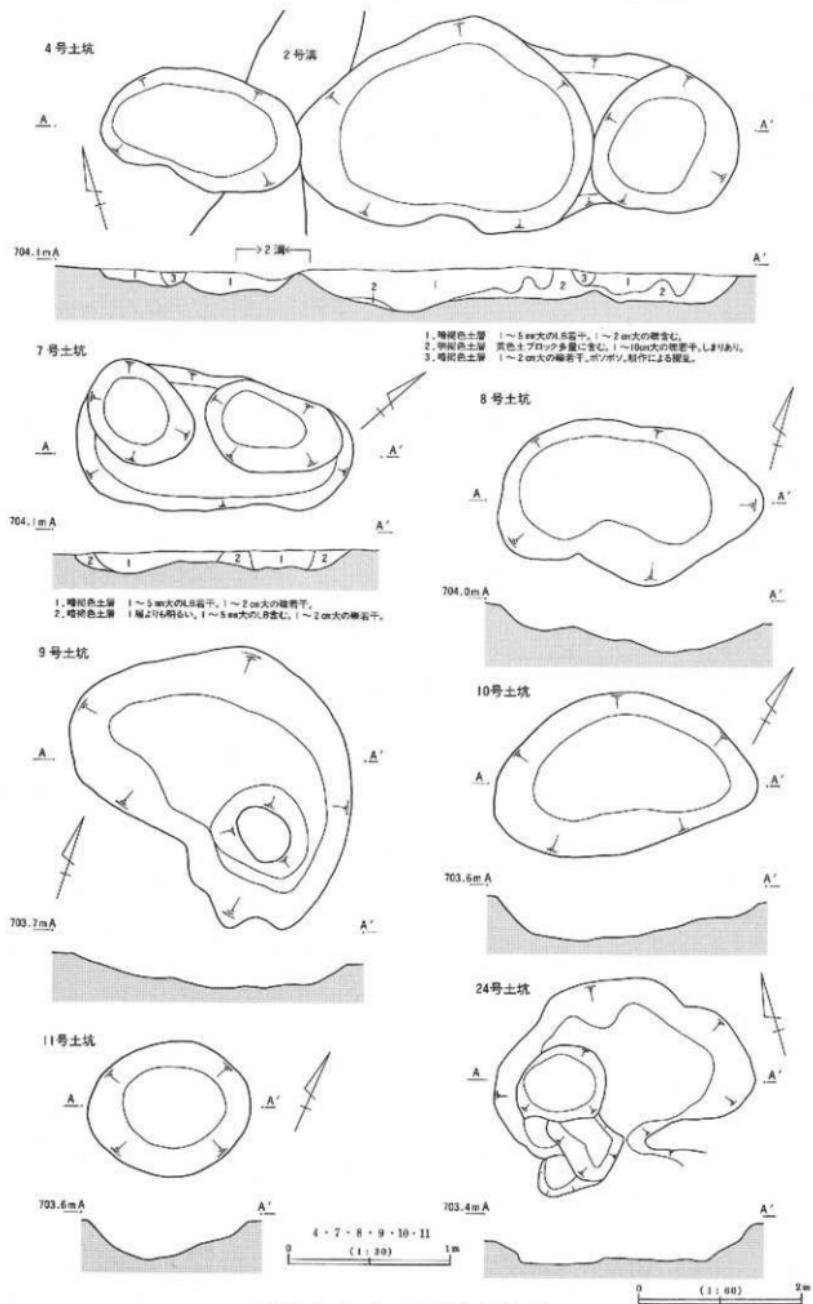
第9图 1号居住址·1号居住址遗物出土状况



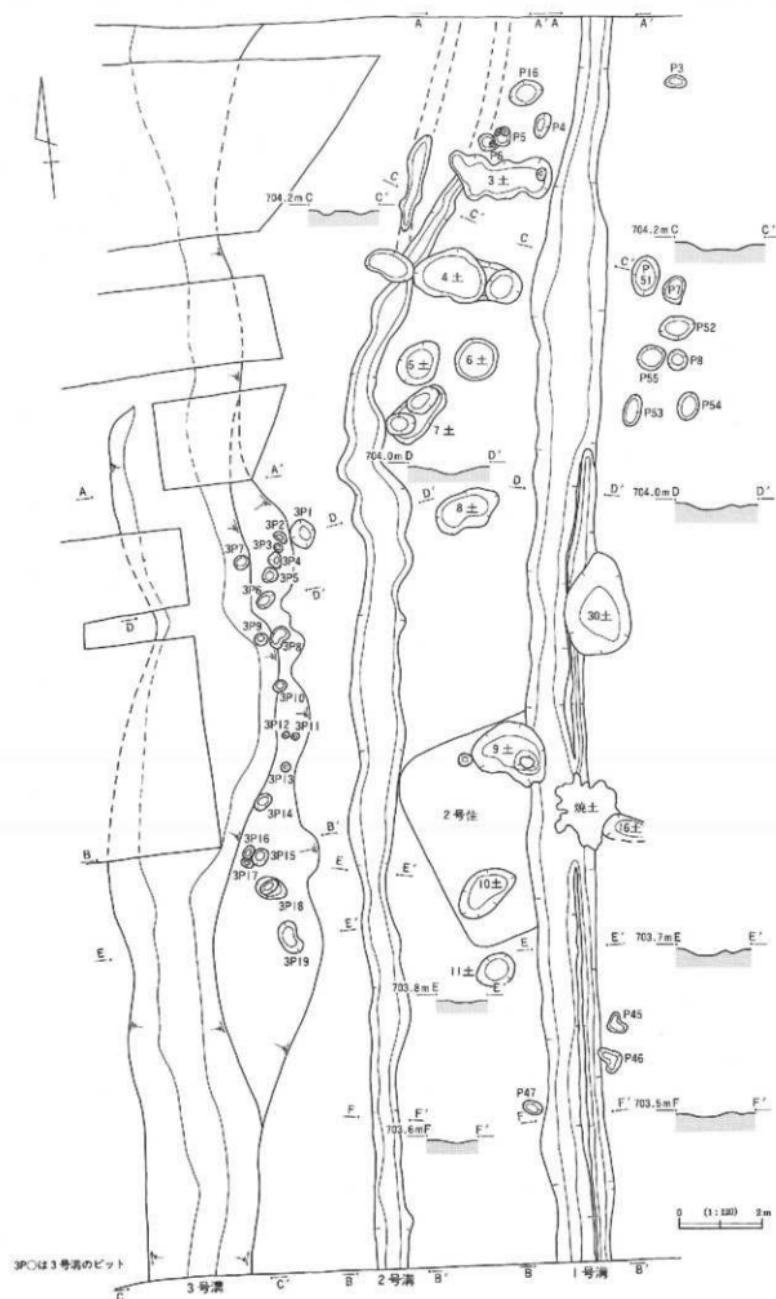
第10図 2号住居跡・2号住居跡カマド



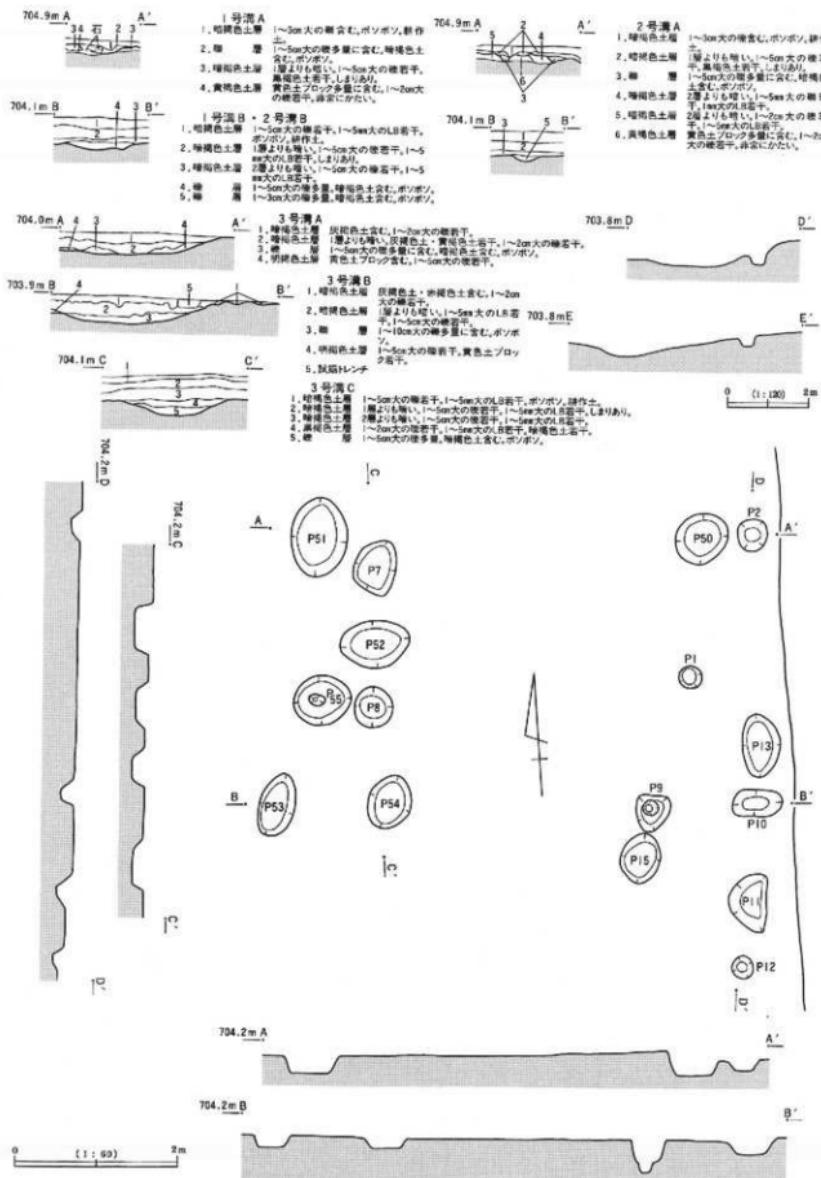
第11図 1・2・3・5・6・16号土坑



第12図 4・7・8・9・10・11・24号土坑

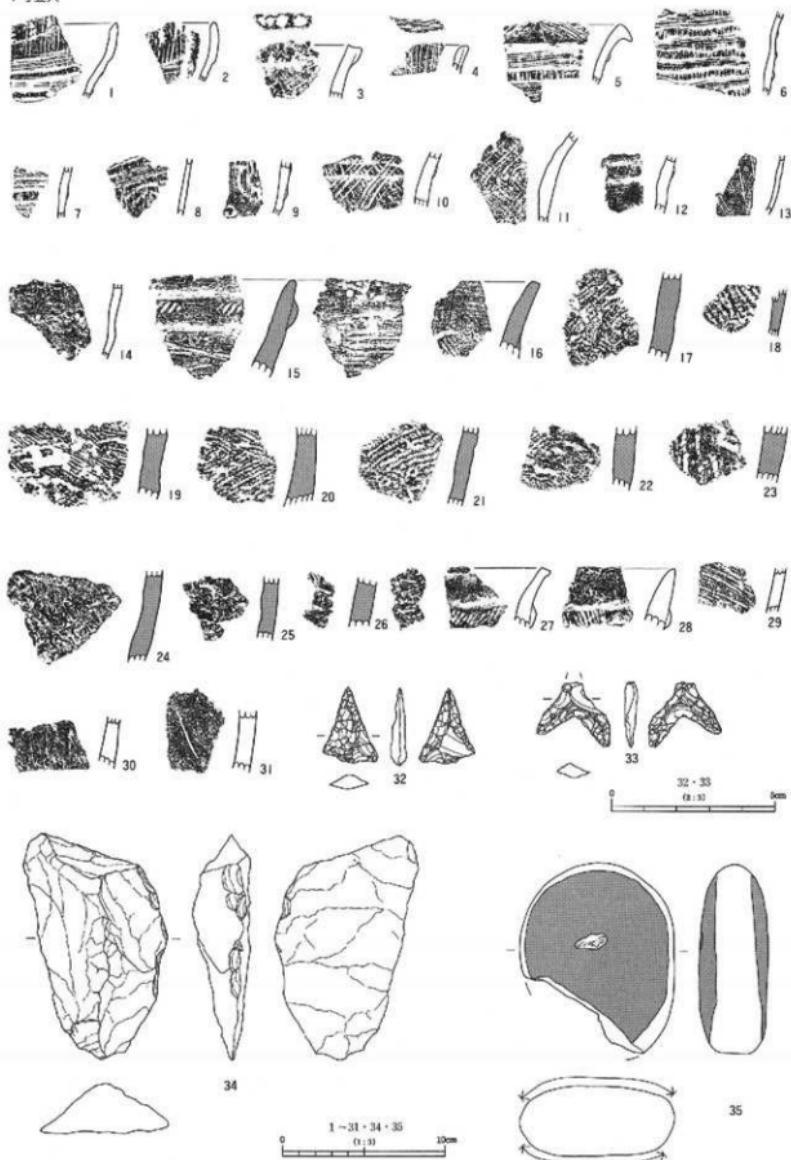


第13図 1・2・3号溝

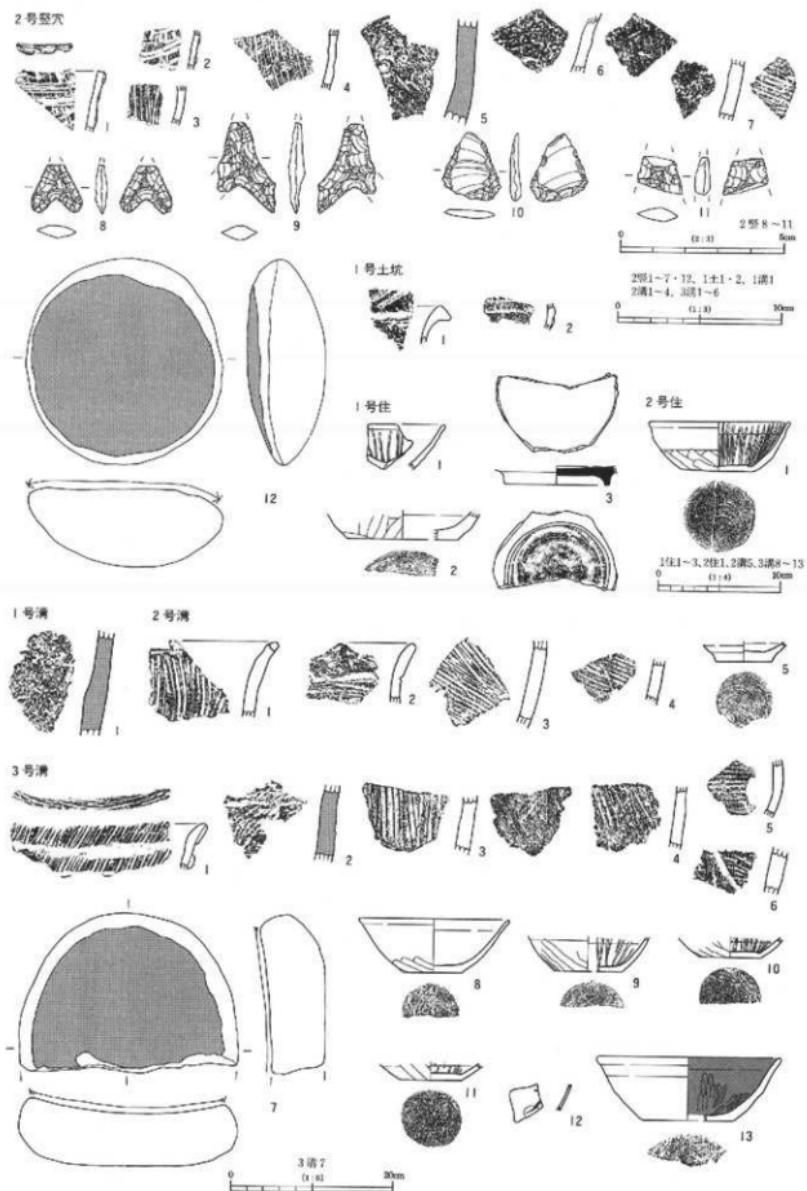


第14図 1・2・3号溝土層断面図 G-6・H-6グリッドピット群

I号竖穴

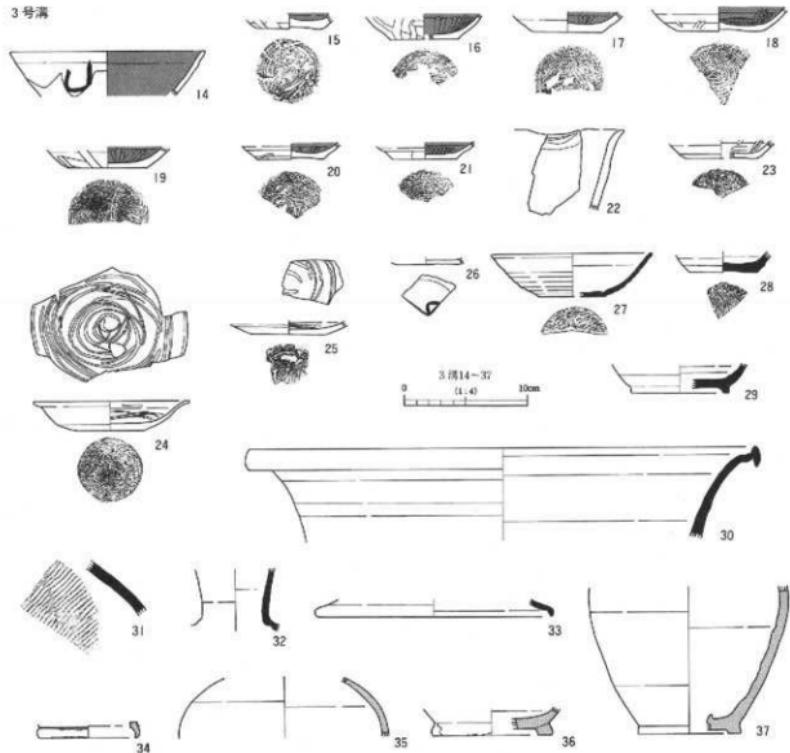


第15圖 1号竖穴出土遺物

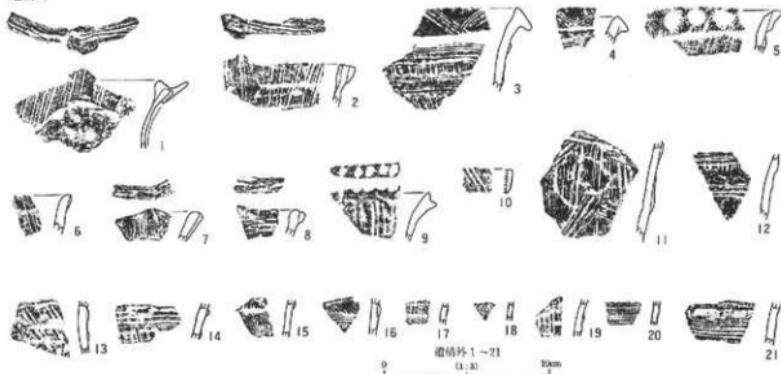


第16圖 2号竖穴・1号土坑・1・2号住・1～3号溝出土遺物

3号溝

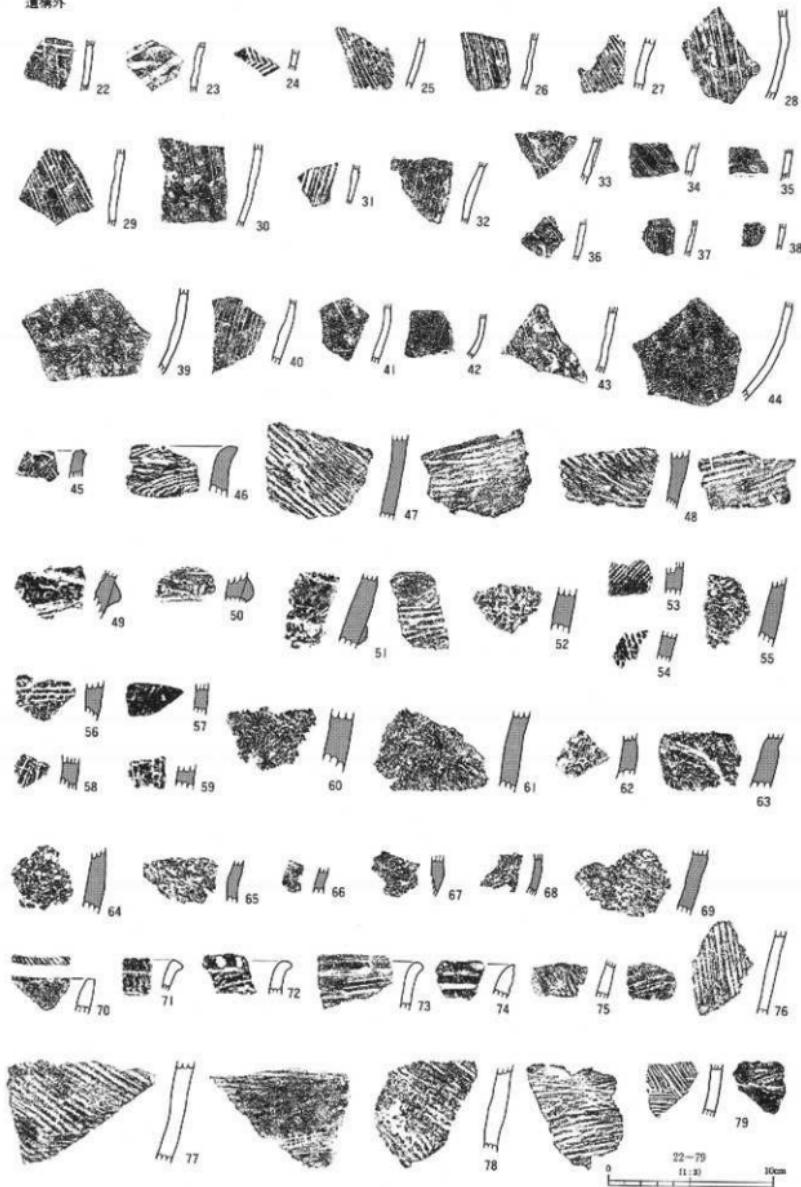


遺構外



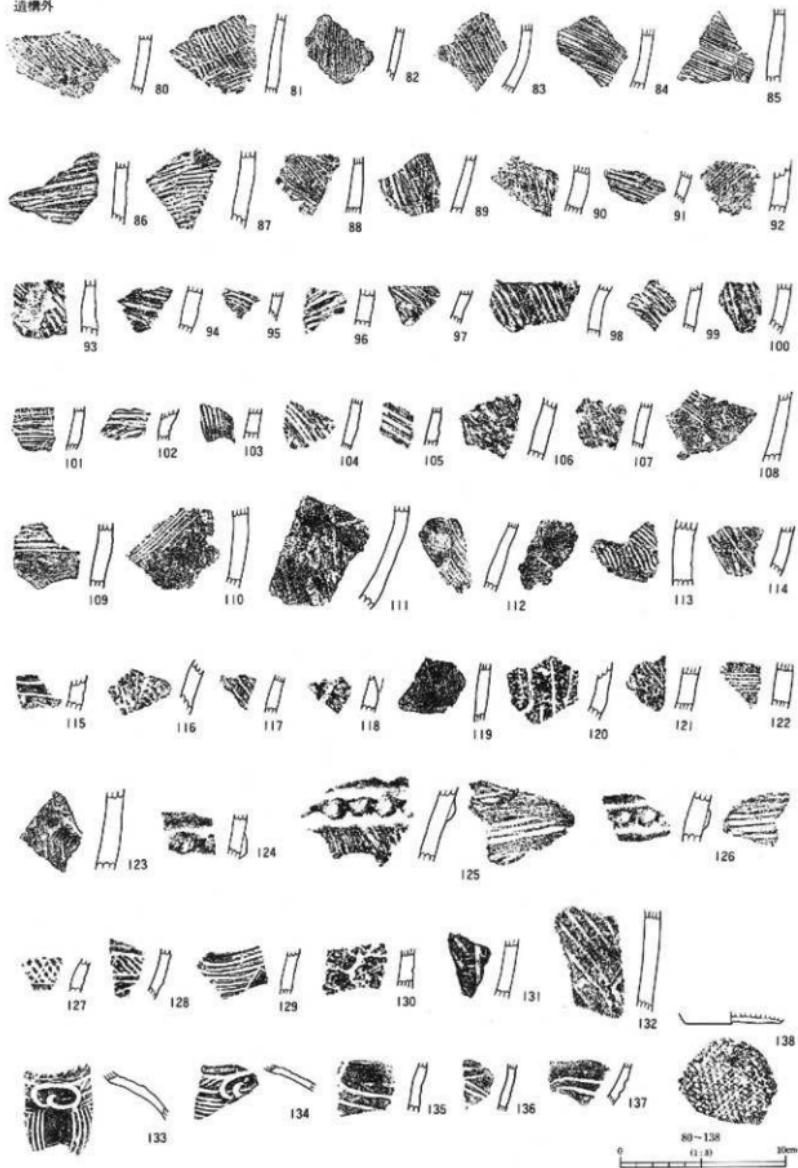
第17図 3号溝・遺構外出土遺物

遺構外



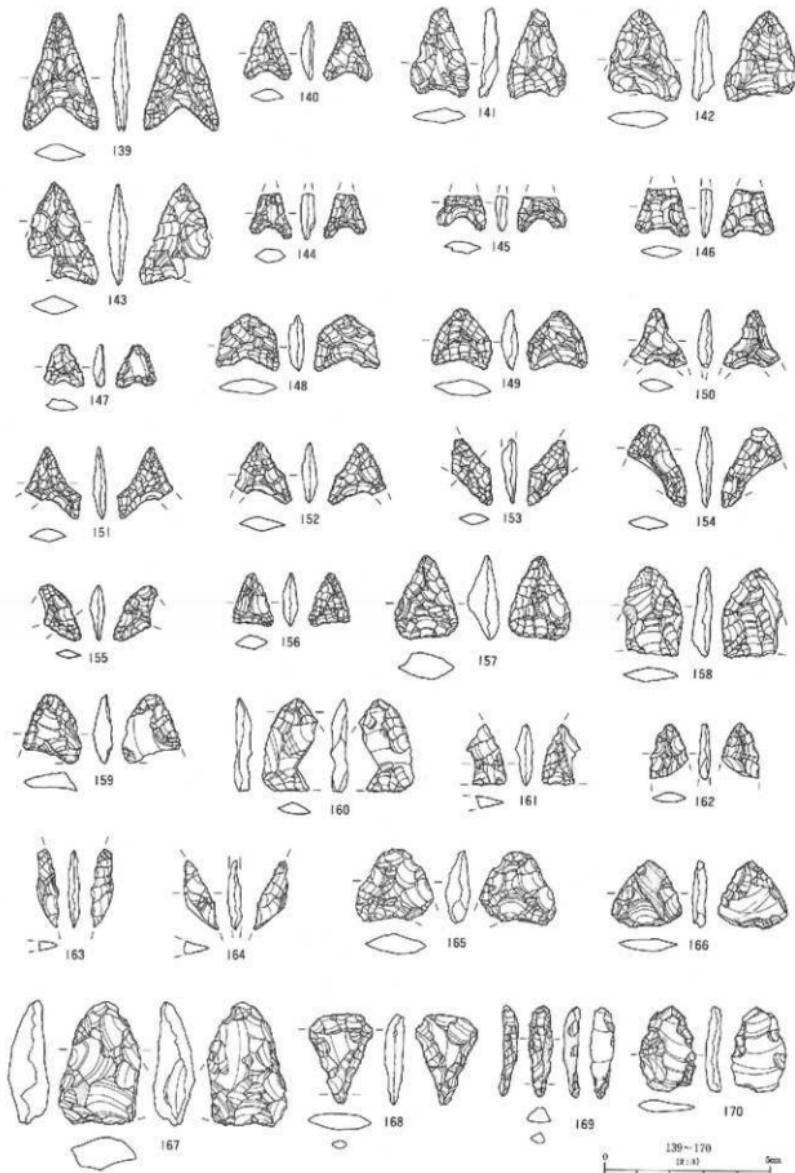
第18圖 遺構外出土遺物

遺構外

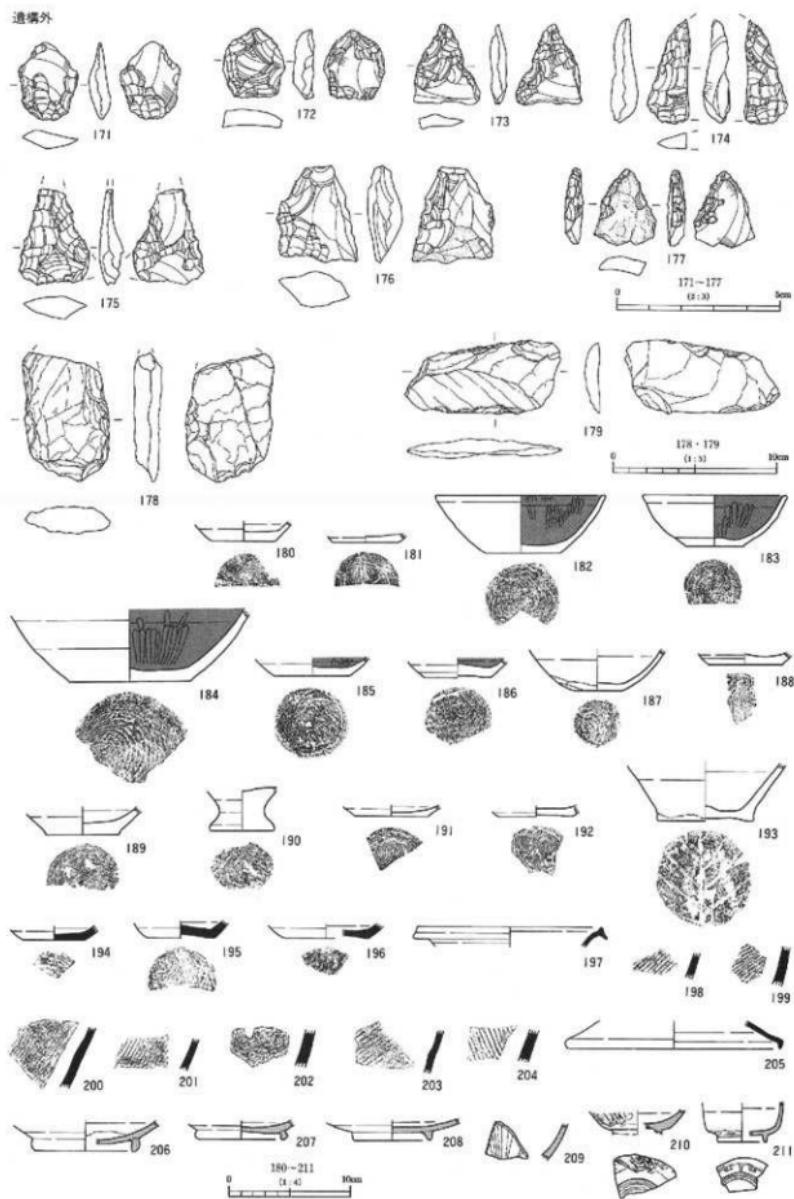


第19図 遺構外出土遺物

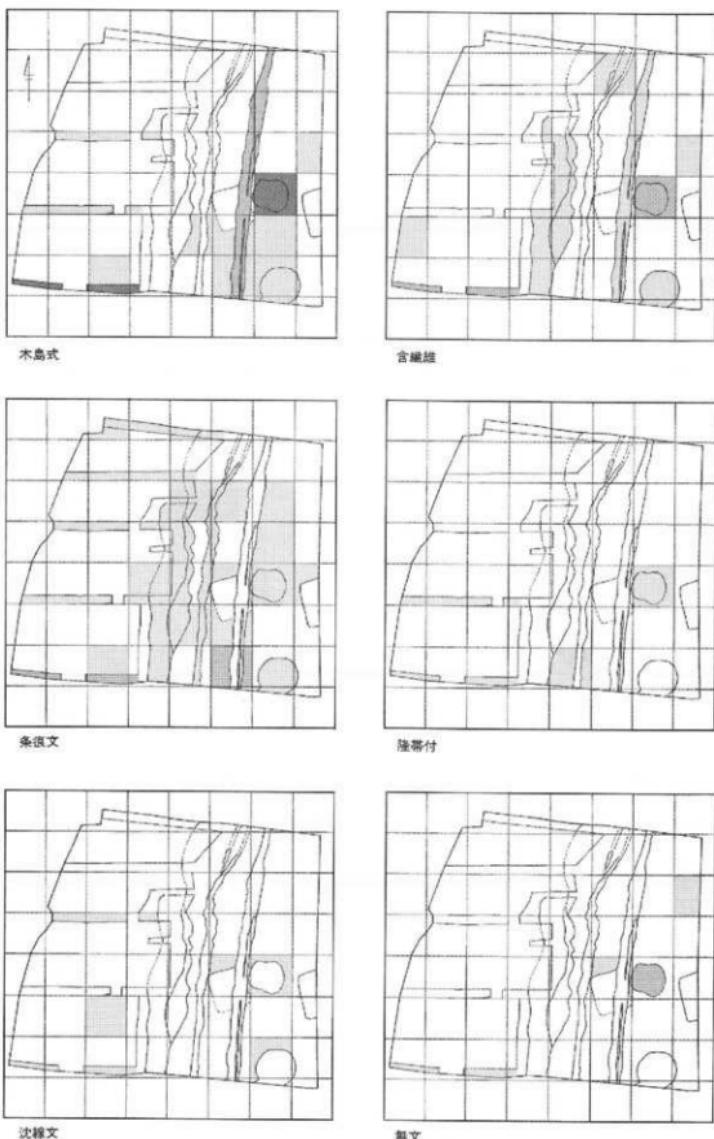
遺構外



第20図 遺構外出土遺物

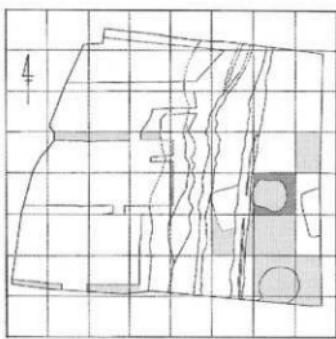


第21図 遺構外出土遺物

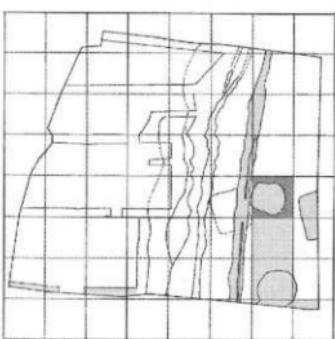


□ = 1 ~ 5 個 □ = 6 ~ 10 個 □ = 11 ~ 20 個 □ = 21 個以上

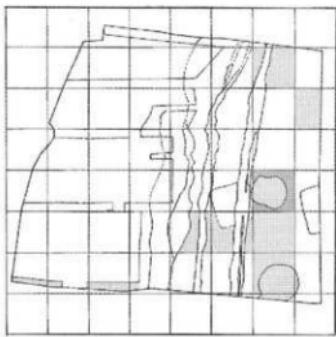
第22図 漢物分布状況（縦文上部）



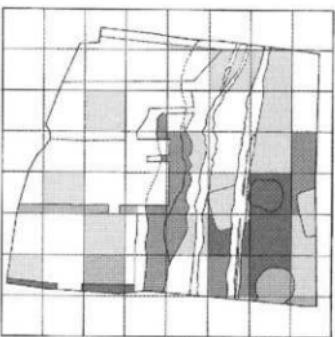
黒曜石石器



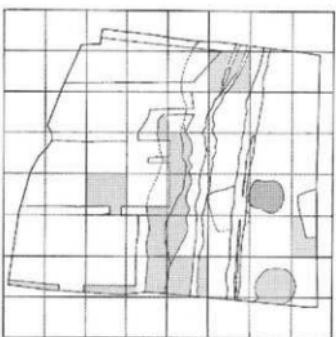
黒曜石削器



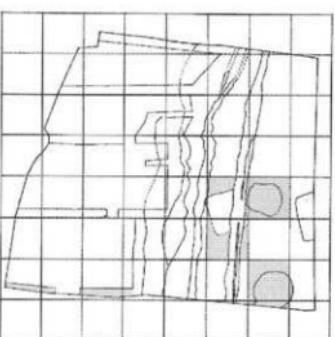
黒曜石搖器



黒曜石剝片



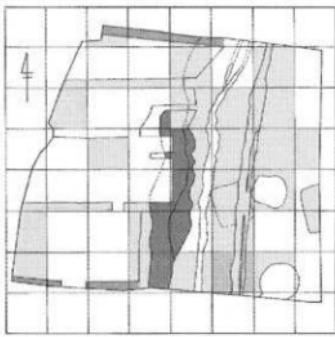
黒曜石石核



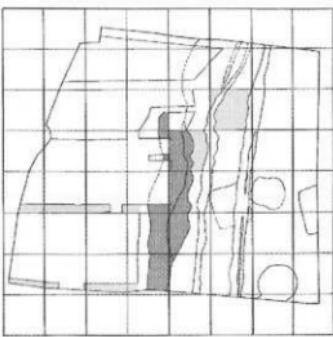
チャート

□ = 1~5個 □ = 6~10個 □ = 11~20個 □ = 21個以上

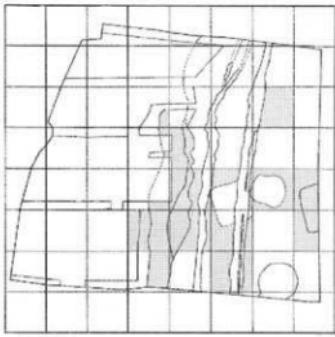
第23図　遺物分布状況（石器）



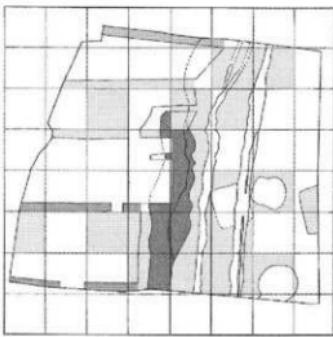
甲型壺



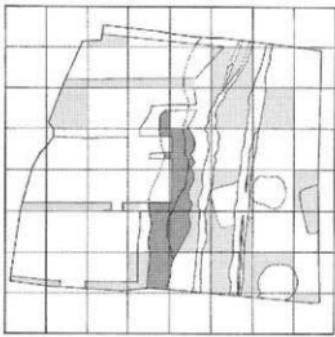
甲型皿



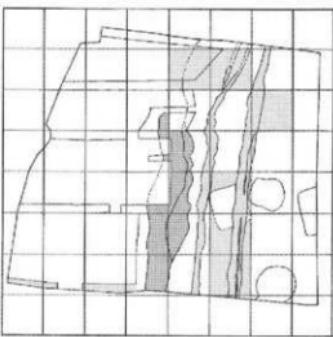
甲型瓶



黒色土器



須恵器



灰釉陶器

□ = 1 ~ 5個 □ = 6 ~ 10個 □ = 11 ~ 20個 □ = 21個以上

第24図 遺物分布状況（その他の土器）

第2表 土坑・ピット一覧

番号	圖版	位 置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	重複開削
1号土坑	5, 11	G-3・4	(230)	110	23.2	16土に切られるか
2号土坑	5, 11	G-4	170.5	94.5	33	1号軸穴と重複
3号土坑	11, 13	F-7, G-7	258	122	26	2号溝と重複
4号土坑	12, 13	F-6・7	390	134	22	2号溝と重複
5号土坑	11, 13	F-6	125.5	95.5	20.5	
6号土坑	11, 13	F-6	110.5	102	26	
7号土坑	12, 13	F-6	169.5	89	24	
8号土坑	12, 13	F-5	162	102	28	
9号土坑	10, 12, 13	F-4	190.5	168	26	1号溝・2号位を切るか
10号土坑	10, 12, 13	F-3	161.5	101.5	27	2号位と重複
11号土坑	10, 12, 13	F-3	95	83.5	24	
12号土坑	7	H-2	80	59	16.2	21上・P28と重複
13号土坑	7	H-1・2	86	79	40.3	14土と接する、24土を切る
14号土坑	7	H-1	(178)	(68)	48.7	13土と接する、24土を切る
15号土坑	5	G-3・4	148	74	32.2	
16号土坑	5, 11, 13	F-4, G-3・4	(126)	68	12	1土を切るか、2号仕掛土と重複
17号土坑	7	H-1・2	110	94	46.8	23上と重複、24土を切る
18号土坑	7	H-2	115	66	7	2号軸穴と重複、21上を切る
19号土坑	7	H-2	72	58	17.8	
20号土坑	7	H-2	69	60	30.9	
21号土坑	7	H-2	104	77	29.5	12上・21上と重複
22号土坑	7	H-2	80	72	16.3	21上と重複、P29と接する
23号土坑	7	H-1・2	119	52	16.7	17上と重複、24土を切る
24号土坑	12	G-1・2, H-1・2	328	270	52.5	13・14・17・18・23上・2号軸穴に切られる
25号土坑	9	H-3	110	50	23.2	
26号土坑	9	G-3, H-3	182	131.5	39	
27号土坑	9	H-3・4	125	90	29.8	P33・34・1号位と重複
28号土坑	9	H-4	70	66	20.9	1号位と重複
29号土坑	3	H-4・5	105	87	12.8	
30号土坑	13	F-4・5, G-4・5	260	120	21.1	1号溝に切られる
ピット1	14	H-5	29	29	9	
ピット2	14	H-6	30	28	50	
ピット3	13	G-7	57	34	20.7	
ピット4	13	G-7	62	39	24.6	
ピット5	13	F-7	49	41	20.6	P6と重複
ピット6	13	F-7	54	42	17.8	P5と重複
ピット7	13, 14	G-6	68	53	22	
ピット8	13, 14	G-6	30	50	14.5	
ピット9	14	H-5・6	46	43	44.7	P36と接する
ピット10	14	H-5・6	63	35	19.8	
ピット11	14	H-5	74	50	16.3	
ピット12	14	H-5	29	28	13	
ピット13	14	H-6	80	50	16.6	
ピット14	5	G-4	44.5	39.5	8.3	
ピット15	14	H-5	62	50	10.5	P9と接する
ピット16	13	F-7, G-7	84	66	24.4	
ピット17	7	G-2	69	31	40.7	
ピット18	7	G-2	55	36.5	29	
ピット19	7	G-2	17.5	15	12.8	
ピット20	7	G-2	24.5	24	11.2	
ピット21	7	G-2	47.5	31	8	
ピット22	7	G-2	53.5	37	10.5	
ピット23	7	G-2, H-2	33	24	28.4	
ピット24	7	H-3	25	24	12.1	
ピット25	7	H-2	18	16	8.5	P26と重複
ピット26	7	H-2	19.5	16.5	11.7	P25と重複
ピット27	7	H-2	36	32	8.7	P28と重複
ピット28	7	H-2	72	21	20.7	P27と重複
ピット29	7	H-2・3	36	30	21	22上と接する
ピット30	7	H-3	41	35	14.8	
ピット31	9	H-4	35	25	15.8	
ピット32	9	H-4	40	27	9.1	
ピット33	9	H-4	45	42	16.6	27上と重複
ピット34	9	G-4, H-4	62	58	27.7	
ピット35	9	H-3	30	30	38	P36と接する
ピット36	9	H-3	20	15	39.6	P37と接する
ピット37	9	H-3	46	20	34.6	P36と接する
ピット38	9	H-3	66	58	8.1	P39、1分径と重複
ピット39	9	H-3	47	45	12.9	P38と重複
ピット40	9	H-3	64	24	9.8	
ピット41	9	H-3	98	36	17.8	
ピット42	9	G-3, H-3	75	29	14.5	
ピット43	9	G-3	36	28	9.9	
ピット44	3	G-3	60	42	19.3	
ピット45	13	F-3	58	45	25.6	
ピット46	13	F-2	74	50	30.4	
ピット47	13	F-2	45	34	11.4	
ピット48	7	H-2, H-3	38	55	11.9	
ピット49	5	G-4	57	53	13.2	
ピット50	14	H-6	71	59	15.8	
ピット51	13, 14	G-6	99.5	72	21.5	
ピット52	13, 14	G-6	88	61	20.7	
ピット53	14	G-6	82	46	14.9	
ピット54	13, 14	G-6	68	56	11.2	
ピット55	13, 14	G-6	74	62	40.2	

第3表 繩文土器観察表

図版	出十位裏	番号	部位	特徴	備考
15	1号脇穴	1	口縁	波状口縁、脣部に粘土紐貼付、口縁部に繩齒状工具による縦位→横位沈線、口唇部直下に繩齒状工具による縦位刺突	木島V
15	"	2	山縁	波状口縁、口縁部直下に粘土紐貼付、口縁部に繩齒状工具による縦位→横位沈線	木島V
15	"	3	口縁	粘土紐貼付による肥厚口縁、口縁部に指洞状孔、繩齒状工具による格子状沈線	木島VI
15	"	4	口縁	粘土紐貼付による肥厚口縁、口唇部に繩齒状工具による格子状沈線、口縁部に繩齒状工具による縦位沈線	木島IV~V
15	"	5	口縁	折り返し口縁、口唇部上に木端状工具による矢羽状沈線、脣部に粘土紐貼付、脣部に小端状工具による縦位→横位沈線	木島V
15	"	6	脣部	粘土紐横位貼付、繩齒状工具による縦位→横位沈線	木島V
15	"	7	脣部	粘土紐横位貼付、繩齒状工具による縦位→横位沈線、補修孔あり	木島V
15	"	8	脣部	粘土紐横位貼付、繩齒状工具による縦位→横位沈線	木島V
15	"	9	脣部	横位→円形の粘土紐貼付、繩齒状工具による縦位沈線	木島V?
15	"	10	脣部	粘土紐横位貼付、繩齒状工具による格子状沈線	木島VI?
15	"	11	脣部	繩齒状工具による格子状沈線、粘土紐のはがれ痕あり	木島VI?
15	"	12	脣部	粘土紐横位貼付、繩齒状工具による格子状沈線	木島VI?
15	"	13	脣部	繩齒状工具による縦位沈線	木島式
15	"	14	脣部	繩齒状工具による縦位沈線	木島式
15	"	15	口縁	口唇部直下に一条の横位隆脊、内外面に条痕文、II形部と隆帯上に工具圧痕	繩維土器
15	"	16	口縁	口縁部直下に一条の横位隆脊、口唇部と隆帯上に工具圧痕	繩維土器
15	"	17	脣部	縄文	繩維土器
15	"	18	脣部	縄文	繩維土器
15	"	19	脣部	縄文	繩維土器
15	"	20	脣部	羽状縫文	繩維土器
15	"	21	脣部	縄文	繩維土器
15	"	22	脣部	縄文	繩維土器
15	"	23	脣部	結節縫文	繩維土器
15	"	24	脣部	無文、内面に条痕文?	繩維土器
15	"	25	脣部	無文	繩維土器
15	"	26	脣部	外舟無文、内面に条痕文	繩維土器
15	"	27	口縁	口唇部直下に一条の横位隆脊、口唇部と隆帯上に工具圧痕	
15	"	28	口縁	口縁部直下に一条の横位隆脊、口唇部と隆帯上に工具圧痕	
15	"	29	脣部	条痕文	
15	"	30	脣部	条痕文	
15	"	31	脣部	弦縫	
16	2号脇穴	1	口縁	波状口縁、粘土紐貼付による肥厚口縁、口唇部に繩齒状工具による沈線、脣部に粘土紐横位貼付、脣部に繩齒状工具による縦位→横位沈線、口唇部直下に繩齒状工具による縦位→横位沈線	木島V
16	"	2	脣部	粘土紐横位貼付、繩齒状工具による縦位→横位沈線	木島V
16	"	3	脣部	繩齒状工具による縦位沈線	木島式
16	"	4	脣部	繩齒状工具による縦位沈線	木島式
16	"	5	脣部	無文、内面に調整痕あり	繩維土器
16	"	6	脣部	外舟無文、内面に条痕文	繩維土器
16	"	7	脣部	外舟無文、内面に条痕文	繩維土器
16	1号土坑	1	口縁	折り返し口縁、口唇部に木端状工具による矢羽状沈線、脣部に木端状工具による横位沈線	木島V
16	"	2	脣部	刺突文、接合痕	
16	1号溝	1	口縁	突起あり、口唇部に沈線、条痕文	繩維土器
16	"	2	口縁	波状口縁、条痕文	
16	"	3	脣部	外舟無文、内面に条痕文	
16	"	4	脣部	条痕文	
16	3号溝	1	II形	粘土紐貼付による肥厚口縁、粘土紐貼付、口唇部に繩齒状工具による沈線、口縁外側に繩齒状工具による縦位沈線	木島IV
16	"	2	脣部	脣文、縄文・刺突?	繩維土器
16	"	3	脣部	条痕文	
16	"	4	脣部	条痕文	
16	"	5	脣部	条痕文	
16	"	6	脣部	沈線、縄文(磨り消し?)	中期
17	遺構外 5トレー	1	口縁	波状口縁、粘土紐貼付による肥厚口縁、波頂部に縦位の粘土紐を押さえつけ貼付、口唇部に繩齒状工具による沈線、口縁外側に繩齒状工具による縦位沈線	木島IV
17	" 5トレー	2	口縁	波状口縁、粘土紐貼付(内外)による肥厚口縁、波頂部に縦位の粘土紐を押さえつけ貼付、口唇部に繩齒状工具による沈線、その上に粘土紐貼付、口縁外側に繩齒状工具による縦位沈線	木島IV
17	" 5トレー	3	口縁	波状口縁、波頂部に矢羽状沈線、脣部粘土紐貼付、器壁に斜位沈線、粘土紐上に縦位沈線	木島V
17	" 5トレー	4	口縁	波状口縁、波頂部に矢羽状沈線、口唇部直下に横位沈線	木島V
17	" E-3	5	口縁	粘土紐貼付による肥厚口縁、その上に粘土紐貼付、その上に繩齒状工具による縦位沈線	木島VI
17	" G-4	6	口縁	波状口縁、粘土紐貼付による肥厚口縁、繩齒状工具による縦位沈線	木島IV?

図版	出土位置	番号	部位	特　　徴	備　　考
17	# G-3	7	口縁	波状口縁、粘土紐貼付による肥厚口縁、口唇部に彌齒状工具による沈線、口縁外側に彌齒状工具による縦位沈線	木島IV-V
17	# E-3	8	口縁	波状口縁、粘土紐貼付による肥厚口縁、口唇部に彌齒状工具による沈線、口縁外側に彌齒状工具による縦位沈線	木島V
17	# 5トレ	9	口縁	口唇部に指印による爪形文、彌齒状工具による縦位沈線	木島VI?
17	# 5トレ	10	口縁	粘土紐貼付による肥厚口縁、口唇部に彌齒状工具による沈線、彌齒状工具による斜位沈線	木島式
17	# 5トレ	11	胸部	内形の粘土紐貼付、彌齒状工具による斜位→縦位→横位沈線	木島IV~V
17	# 5トレ	12	胸部	彌齒状工具による縦位・横位沈線、粘土紐のはがれ痕	木島V
17	# 5トレ	13	胸部	粘土紐貼付、彌齒状工具による縦位沈線	木島IV?
17	# 5トレ	14	胸部	粘土紐貼付、彌齒状工具による縦位・横位沈線	木島V
17	# G-4	15	胸部	縦位の粘土紐貼付、彌齒状工具による縦位沈線	木島IV?
17	# G-4	16	胸部	横位の粘土紐貼付、彌齒状工具による斜位、横位沈線	木島V
17	# G-4	17	胸部	縦位の粘土紐貼付、彌齒状工具による縦位沈線	木島IV?
17	# G-4	18	胸部	彌齒状工具による縦位沈線	木島式
17	# G-4	19	胸部	縦位の粘土紐貼付、彌齒状工具による縦位沈線	木島IV?
17	# G-4	20	胸部	彌齒状工具による縦位沈線	木島V
17	# 5トレ	21	胸部	彌齒状工具による縦位→横位沈線、粘土紐のはがれ痕	木島V
18	# E-8	22	胸部	彌齒状工具による縦位・横位沈線	木島V
18	# G-3	23	胸部	彌齒状工具による沈線、粘土紐のはがれ痕	木島式
18	# 3トレ	24	胸部	彌齒状工具による斜位沈線	木島式
18	# 5トレ	25	胸部	彌齒状工具による斜位沈線	木島式
18	# 5トレ	26	胸部	彌齒状工具による斜位沈線	木島式
18	# 5トレ	27	胸部	彌齒状工具による斜位沈線	木島式
18	# 4トレ	28	胸部	彌齒状工具による斜位沈線	木島式
18	# 5トレ	29	胸部	彌齒状工具による斜位沈線	木島式
18	# 5トレ	30	胸部	彌齒状工具による斜位沈線	木島式
18	# 5トレ	31	胸部	彌齒状工具による斜位沈線	木島式
18	# 5トレ	32	胸部	彌齒状工具による斜位沈線	木島式
18	# 5トレ	33	胸部	彌齒状工具による斜位沈線	木島式
18	H-5	34	胸部	彌齒状工具による斜位沈線	木島式
18	F-3	35	胸部	彌齒状工具による斜位沈線	木島式
18	G-3	36	胸部	彌齒状工具による斜位沈線	木島式
18	G-4	37	胸部	彌齒状工具による縦位沈線	木島式
18	G-4	38	胸部	彌齒状工具による縦位沈線	木島式
18	5トレ	39	胸部	彌齒状工具による斜位沈線	木島式
18	5トレ	40	胸部	彌齒状工具による斜位沈線	木島式
18	0 0	41	胸部	彌齒状工具による斜位沈線	木島式
18	G-4	42	胸部	彌齒状工具による斜位→横位沈線	木島式
18	5トレ	43	胸部	彌齒状工具による斜位沈線	木島式
18	5トレ	44	胸部	「むかしに」彌齒状工具による縦位沈線	木島式
18	G-4	45	口縁	彌齒状工具による斜位沈線、口唇部に「」記痕	織維土器
18	5トレ	46	口縁	条状文、口唇部に「」記痕	織維土器
18	5トレ	47	胸部	条状文（内外）	織維土器
18	5トレ	48	胸部	条状文（内外）	織維土器
18	5トレ	49	胸足	横位降壺、条状文、陸帶上に工具仕痕	織維土器
18	5トレ	50	胸足	横位降壺、陸帶上に工具仕痕	織維土器
18	4トレ	51	胸足	横位降壺、内面に条状文	織維土器
18	G-4	52	胸部	純文	織維土器
18	G-4	53	胸部	純文	織維土器
18	H-5	54	胸部	純文压痕？	織維土器
18	G-4	55	胸部	純文？	織縫土器
18	0 0	56	胸部	純文	織維土器
18	G-4	57	胸部	純文	織維土器
18	II-5	58	胸部	純文を压痕	織維土器
18	H-5	59	胸部	沈線？	織維土器
18	G-4	60	胸部	無文	織維土器
18	F-7	61	胸部	無文、内外面に調整痕あり	織維土器
18	G-1	62	胸部	無文	織維土器
18	5トレ	63	胸部	無文	織維土器
18	5トレ	64	胸部	無文	織維土器
18	5トレ	65	胸部	無文、内外面に溝痕底あり	織維土器
18	A-3	66	胸部	無文	織維土器
18	5トレ	67	胸部	無文、外面に溝痕底あり	織維土器
18	5トレ	68	胸部	無文、内外面に溝痕底あり	織維土器
18	5トレ	69	胸部	無文	織維土器
18	G-4	70	口縁	口唇部に「」記痕	
18	5トレ	71	口縁	口縁部裏方に彌齒状工具による縦位・横位沈線、口唇部に彌齒状工具による沈線	

図版	出土位置	番号	部位	特徴	備考
18	" 5トレ	72	口縁	口唇部に刻目、条痕文	
18	" D-4	73	口縁	口唇部に条痕、条痕文	
18	" C-3	74	口縁	沈線	
18	" 2トレ	75	胴部	内外向に条痕文	
18	" E-3	76	胴部	条痕文	
18	" 5トレ	77	胴部	内外向に条痕文	
18	" 5トレ	78	胴部	内外向に条痕文	
18	" E-8	79	胴部	内外向に条痕文	
19	" 5トレ	80	胴部	条痕文	
19	" E-6	81	胴部	条痕文	
19	" 1トレ	82	胴部	条痕文	
19	" F-2	83	胴部	条痕文	
19	" F-2	84	胴部	条痕文	
19	" F-2	85	胴部	条痕文	
19	" F-2	86	胴部	条痕文	
19	" F-4	87	胴部	条痕文	
19	" F-6	88	胴部	条痕文	
19	" E-3	89	胴部	条痕文	
19	" G-5	90	胴部	内外向に条痕文	
19	" F-2	91	胴部	条痕文	
19	" 0 0	92	胴部	条痕文?	
19	" F-2	93	胴部	条痕文	
19	" G-2	94	胴部	条痕文	
19	" G-4	95	胴部	条痕文?	
19	" 1トレ	96	胴部	条痕文	
19	" H-4	97	胴部	条痕文	
19	" 0 0	98	胴部	条痕文	
19	" E-8	99	胴部	条痕文	
19	" F-3	100	胴部	条痕文?	
19	" F-2	101	胴部	条痕文	
19	" 5トレ	102	胴部	条痕文	
19	" G-4	103	胴部	条痕文	
19	" F-4	104	胴部	条痕文	
19	" F-4	105	胴部	条痕文	
19	" 4トレ	106	胴部	条痕文	
19	" F-4	107	胴部	条痕文	
19	" C-2	108	胴部	条痕文	
19	" G-6	109	胴部	条痕文	
19	" C-8	110	胴部	条痕文?	
19	" 2トレ	111	胴部	外面に条痕文	
19	" G-2	112	胴部	沈線	
19	" C-5	113	胴部	沈線	
19	" 3トレ	114	胴部	沈線、沈線	
19	" 3トレ	115	胴部	沈線	
19	" 4トレ	116	胴部	沈線	
19	" 3トレ	117	胴部	沈線	
19	" 3トレ	118	胴部	沈線	
19	" F-3	119	胴部	沈線	
19	" F-4	120	胴部	沈線	
19	" G-4	121	胴部	彌尚状工具による斜位沈線	
19	" 2トレ	122	胴部	彌尚状工具による沈線	
19	" E-8	123	胴部	沈線?	
19	" 5トレ	124	胴部	横位隆帯、隆帯上に指痕压痕	
19	" E-2	125	胴部	横位隆帯、隆帯上に指痕压痕、内外向に条痕文	
19	" 4トレ	126	胴部	横位隆帯、隆帯上に指痕压痕、内面に条痕文	
19	" F-6	127	胴部	沈線(格子状)	中期
19	" G-6	128	胴部	沈線(格子状)	中期?
19	" G-6	129	胴部	沈線	中期?
19	" E-2	130	胴部	蛇行沈線、ハの字文	中期
19	" 3トレ	131	胴部	沈線、ハの字文	中期
19	" 3トレ	132	胴部	蛇行沈線、ハの字文	中期
19	" 3トレ	133	胴部	沈線	後期
19	" 3トレ	134	胴部	沈線	後期
19	" A-2	135	胴部	沈線	後期?
19	" 5トレ	136	胴部	沈線	後期
19	" 5トレ	137	胴部	沈線	後期
19	" 3トレ	138	底部	網代模	後期?

第4表 石器観察表

図版	出土位置	番号	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	備考
15	1号墳穴	32	石鏃	2.35	1.7	0.5	0.9	黒曜石	有茎平基
15	"	33	石鏃	(2.0)	2.25	0.4	(0.7)	黒曜石	無茎円基
15	"	34	鍬器?	13.7	8.9	3.4	338	ホルンフェルス	
15	"	35	磨石	(11.5)	9.3	4.2	(571)	安山岩	扇面2、凹みあり
16	2号墳穴	8	石鏃	(1.5)	1.6	0.35	(0.6)	黒曜石	無茎円基
16	"	9	石鏃	(2.8)	(1.8)	0.5	(1.2)	黒曜石	無茎凹基
16	"	10	石鏃	2.1	1.75	0.3	0.9	黒曜石	無茎凸基
16	"	11	石鏃	(1.15)	(1.4)	(0.45)	(0.6)	黒曜石	体部破片
16	"	12	磨石	12.6	11.9	4.8	801	輝石安山岩	扇面1
16	3号墳	7	石皿	(19.9)	(27.2)	(8.3)	(6190)	安山岩	残存率50%
20	遺構外 G-4	139	石鏃	3.6	2.3	0.5	2.1	黒曜石	無茎凹基
20	" H-2	140	石鏃	1.8	1.45	0.4	0.6	黒曜石	無茎凹基
20	" G-4	141	石鏃	2.75	1.8	0.6	1.5	黒曜石	無茎凹基
20	" G-4	142	石鏃	(2.8)	(2.25)	0.65	(2.5)	黒曜石	無茎凹基
20	" G-4	143	石鏃	(3.15)	(2.15)	0.6	(2.1)	黒曜石	無茎凹基
20	" G-4	144	石鏃	(1.4)	1.3	0.45	(0.5)	黒曜石	無茎凹基
20	" F-3	145	石鏃	(1.05)	1.5	0.4	(0.4)	黒曜石	無茎凹基
20	" 5トレ	146	石鏃	(1.5)	(1.6)	0.35	(0.7)	黒曜石	無茎凹基
20	" H-5	147	石鏃	(1.3)	(1.25)	0.35	(0.5)	黒曜石	無茎凹基
20	" H-1	148	石鏃	1.75	1.95	0.5	1.1	黒曜石	無茎凹基
20	" 3トレ	149	石鏃	1.85	1.85	0.5	1.2	黒曜石	無茎凹基
20	" 5トレ	150	石鏃	(1.8)	(1.75)	0.4	(0.9)	黒曜石	無茎凹基
20	" G-4	151	石鏃	(2.2)	(1.7)	0.4	(0.6)	黒曜石	無茎凹基
20	" G-2	152	石鏃	(1.9)	(1.75)	0.5	(0.8)	黒曜石	無茎凹基
20	" G-3	153	石鏃	(2.0)	(1.25)	(0.45)	(0.6)	黒曜石	無茎凹基
20	" G-4	154	石鏃	(2.5)	(1.8)	(0.5)	(0.9)	黒曜石	無茎凹基
20	" G-4	155	石鏃	(1.7)	(1.3)	0.45	(0.5)	黒曜石	無茎凹基
20	" 3トレ	156	石鏃	(1.65)	(1.25)	0.5	(0.6)	黒曜石	無茎凹基
20	" G-3	157	石鏃	2.6	1.9	1.0	3.0	黒曜石	無茎平基
20	" H-5	158	石鏃	(2.75)	(1.85)	0.6	(2.3)	黒曜石	無茎平基
20	" G-4	159	石鏃	(2.1)	(1.8)	0.6	(1.4)	黒曜石	
20	" G-4	160	石鏃	2.85	(1.65)	(0.5)	(1.9)	黒曜石	無茎平基
20	" 5トレ	161	石鏃?	(1.85)	(1.25)	(0.5)	(0.5)	黒曜石	無茎平基?
20	" 5トレ	162	石鏃?	(1.7)	(1.15)	(0.35)	(0.5)	チャート	先端部破片
20	" G-4	163	石鏃?	(2.4)	(0.75)	(0.35)	0.3	チャート	
20	" G-2	164	石鏃?	(2.1)	(1.05)	(0.45)	(0.4)	黒曜石	体部破片
20	" G-4	165	石鏃	(2.4)	(2.2)	0.75	(2.8)	黒曜石	無茎凹基
20	" H-5	166	石鏃	2.05	2.15	0.4	1.3	黒曜石	無茎凸基
20	" 0 0	167	石鏃	3.8	2.5	1.3	10.2	黒曜石	木製品
20	" G-4	168	ドリル	2.8	1.95	0.55	2.3	黒曜石	つまみあり
20	" F-2	169	ドリル	2.8	0.75	0.55	0.8	黒曜石	棒状
20	" 5トレ	170	削器	2.6	1.7	0.5	1.5	黒曜石	
21	" G-4	171	削器	2.4	1.85	0.7	1.9	黒曜石	
21	" 5トレ	172	削器	2.15	1.9	0.65	2.5	黒曜石	
21	" G-4	173	削器	2.5	2.0	0.5	1.7	黒曜石	
21	" G-3	174	削器	(3.2)	(1.3)	(0.8)	(2.8)	黒曜石	
21	" G-4	175	削器	(2.95)	(2.1)	0.75	(3.4)	チャート	
21	" 0 0	176	削器	3.0	2.5	1.1	6.8	チャート	
21	" G-4	177	搔器?	2.35	1.9	0.6	1.9	黒曜石	
21	" 5トレ	178	打製石斧	(7.9)	5.3	1.6	(91)	ホルンフェルス	短鬚形
21	" 2トレ	179	横刃形石器	4.5	9.5	1.2	50	ホルンフェルス	

第5表 その他の土器調査表

回数	川十位窯	番号	部種	施 形	焼成手	口絶形(内) 气孔形(外)	器底形(内) 器底面(外)	その他の特徴	裏面(内)	底面(外)	身(内)	身(外)	蓋(内)	蓋(外)	縁	縁	特 徴		
									形状	底径	高さ	底径	高さ	底径	高さ	底径	高さ	特 徴	
16	1号位	1	土焼	甲斐型(6)	口縁幅片	(10.4)	—	—	良好	瓦状, 瓦状, 裸	外)赤色 (内)に少い褐色	(外)ロクロナダ (内)ロクロナダ	(内)青文						
16	"	2	土焼	焼?	底端片	—	(9.0)	—	良好	瓦状, 瓦状, 裸	外)赤色 (内)に少い褐色	(外)ロクロナダ (内)ロクロナダ	(内)青文						
16	"	3	窯变	高台?	底端片	—	(8.5)	—	良好	瓦状, 瓦状, 裸	外)赤色 (内)に少い褐色	(外)ロクロナダ (内)ロクロナダ	(内)青文						
16	2号位	1	土焼	甲斐型	焼?	11.4	5.8	4.0	良好	瓦状, 瓦状, 裸	外)赤色 (内)に少い褐色	(外)ロクロナダ (内)ロクロナダ	(内)青文						
16	2号位	5	土焼	环	底端片	—	4.6	—	良好	瓦状, 瓦状, 裸	外)赤色 (内)に少い褐色	(外)ロクロナダ (内)ロクロナダ	(内)青文						
16	3号窯	8	土焼	甲斐型	30%	(12.0)	(4.6)	4.4	良好	瓦状, 瓦状, 裸	外)赤色 (内)に少い褐色	(外)ロクロナダ (内)ロクロナダ	(内)青文						
16	"	9	土焼	甲斐型	体~底端片	—	(5.4)	—	良好	瓦状, 瓦状, 裸	外)赤色 (内)に少い褐色	(外)ロクロナダ (内)ロクロナダ	(内)青文						
16	"	10	土焼	甲斐型	底端片	—	(5.0)	—	良好	瓦状, 瓦状, 裸	外)赤色 (内)に少い褐色	(外)ロクロナダ (内)ロクロナダ	(内)青文						
16	"	11	土焼	甲斐型	底端片	—	5.0	—	良好	瓦状, 瓦状, 裸	外)赤色 (内)に少い褐色	(外)ロクロナダ (内)ロクロナダ	(内)青文						
16	"	12	土焼	甲斐型	体端片	—	—	—	良好	瓦状, 瓦状, 裸	外)赤色 (内)に少い褐色	(外)ロクロナダ (内)ロクロナダ	(内)青文						
16	"	13	黑色	环	30%	(14.8)	(7.2)	5.2	—	良好	瓦状, 瓦状, 裸	外)赤色 (内)に少い褐色	(外)ロクロナダ (内)ロクロナダ	(内)青文					
17	"	14	黑色	环	11%焼片	(15.6)	—	—	良好	瓦状, 瓦状, 裸	外)赤色 (内)に少い褐色	(外)ロクロナダ (内)ロクロナダ	(内)青文						
17	"	15	黑色	环	底端片	—	5.3	—	良好	瓦状, 瓦状, 裸	外)赤色 (内)に少い褐色	(外)ロクロナダ (内)ロクロナダ	(内)青文						
17	"	16	黑色	环	体~底端片	—	(5.6)	—	良好	瓦状, 瓦状, 裸	外)赤色 (内)に少い褐色	(外)ロクロナダ (内)ロクロナダ	(内)青文						
17	"	17	黑色	环	底端片	—	(5.6)	—	良好	瓦状, 瓦状, 裸	外)赤色 (内)に少い褐色	(外)ロクロナダ (内)ロクロナダ	(内)青文						
17	"	18	黑色	环	底端片	—	(7.0)	—	良好	瓦状, 瓦状, 裸	外)赤色 (内)に少い褐色	(外)ロクロナダ (内)ロクロナダ	(内)青文						
17	"	19	黑色	环	底端片	—	(6.3)	—	良好	瓦状, 瓦状, 裸	外)赤色 (内)に少い褐色	(外)ロクロナダ (内)ロクロナダ	(内)青文						
17	"	20	黑色	环	底端片	—	(5.4)	—	良好	瓦状, 瓦状, 裸	外)赤色 (内)に少い褐色	(外)ロクロナダ (内)ロクロナダ	(内)青文						
17	"	21	黑色	环	底端片	—	(5.2)	—	良好	瓦状, 瓦状, 裸	外)赤色 (内)に少い褐色	(外)ロクロナダ (内)ロクロナダ	(内)青文						
17	"	22	黑色	片口杯	11~体端片	—	—	—	良好	瓦状, 瓦状, 裸	外)赤色 (内)に少い褐色	(外)ロクロナダ (内)ロクロナダ	(内)青文						
17	"	23	七輪	环?	底端片	—	(6.6)	—	良好	瓦状, 瓦状, 裸	外)赤色 (内)に少い褐色	(外)ロクロナダ (内)ロクロナダ	(内)青文						
17	"	24	上海	甲斐型	50%	(12.5)	5.2	2.4	—	良好	瓦状, 瓦状, 裸	外)赤色 (内)に少い褐色	(外)ロクロナダ (内)ロクロナダ	(内)青文					
17	"	25	土焼	甲斐型	底端片	—	(6.0)	—	良好	瓦状, 瓦状, 裸	外)赤色 (内)に少い褐色	(外)ロクロナダ (内)ロクロナダ	(内)青文						
17	"	26	土焼	甲斐型	底端片	—	(4.8)	—	良好	瓦状, 瓦状, 裸	外)赤色 (内)に少い褐色	(外)ロクロナダ (内)ロクロナダ	(内)青文						
17	"	27	須恵	环	30%	(13.0)	(5.4)	3.5	—	良好	瓦状, 瓦状, 裸	外)赤色 (内)に少い褐色	(外)ロクロナダ (内)ロクロナダ	(内)青文					
17	"	28	須恵	环?	底端片	—	(5.6)	—	良好	瓦状, 瓦状, 裸	外)赤色 (内)に少い褐色	(外)ロクロナダ (内)ロクロナダ	(内)青文						
17	"	29	須恵	高台?	底端片	—	(8.0)	—	良好	瓦状, 瓦状, 裸	外)赤色 (内)に少い褐色	(外)ロクロナダ (内)ロクロナダ	(内)青文						
17	"	30	須恵	束	11~底端片	(41.2)	—	—	良好	瓦状, 瓦状, 裸	外)赤色 (内)に少い褐色	(外)ロクロナダ (内)ロクロナダ	(内)青文						
17	"	31	須恵	大妻	割片	—	—	—	良好	瓦状, 瓦状, 裸	外)赤色 (内)に少い褐色	(外)ロクロナダ (内)ロクロナダ	(内)青文						
17	"	32	須恵	瓦	底端片	—	—	—	良好	瓦状, 瓦状, 裸	外)赤色 (内)に少い褐色	(外)ロクロナダ (内)ロクロナダ	(内)青文						
17	"	33	須恵	壺	底端片	(19.0)	—	—	良好	瓦状, 瓦状, 裸	外)赤色 (内)に少い褐色	(外)ロクロナダ (内)ロクロナダ	(内)青文						

第6表 繩文土器遺物別出土一覧

上段：個数 下段：重量(g)

グリッド	繩文			縄文			縄文			縄文			本島	中期	後期	合計	
	無	縄	土	無	縄	土	無	縄	土	無	縄	土					
1号櫛火	7	2	1		4		4	5	2	21				45			
	172	50	11		49		102	111	208					763			
2号窓穴		2			1					5				8			
		40			9					33				82			
1号溝		1								10				11			
		33								41				74			
2号溝					4									4			
					70									70			
3号溝		2			3									6			
		28			45									85			
1号土坑										3				3			
										13				13			
9号土坑								1						104			
13号土坑										1				1			
A-2														1		1	
A-3		1												2		2	
C-2		2												23			
C-3					1									7			
C-8					7									1			
D-4					28									28			
E-2					13									1		1	
E-3								50						2		2	
E-6										16				66			
E-8					24									4			
F-2					1									1			
F-3					15									19			
F-4					18									7			
F-6					7									47			
F-7					92									2		9	
G-1					2									2		94	
G-2					15									3		5	
G-3					1									9		30	
G-4		3	1		1					3				7			
F-6		34	17					119						170			
F-7		1	12										5	2		17	
G-1		1	39											1			
G-2		7								5				39			
G-3								1		6				7			
G-4	2	3	1		2	1	1			1				13			
G-5	21	19	28		8	9	5			58				16			
G-6														34			
G-7					15									148			
H-4					1									1			
H-5					19									15			
H-6					1									3			
Iトレ					7									17			
2トレ					1									3			
3トレ					57									67			
4トレ					1	2								7			
5トレ		3	5		6	1	3			45				91			
表 條		85	64		149	3	41			175				62			
合 計	11	8	16	0	54	7	11			16				6		273	
	205	154	257	0	793	60	243			549				87		67	3196

第7表 右器遺模別出土一覽

第8表 その他の土器遺物別出土一覧

上册·新詩 下編·新歌 / 11

図 版



調査区全景（南より）

図版2



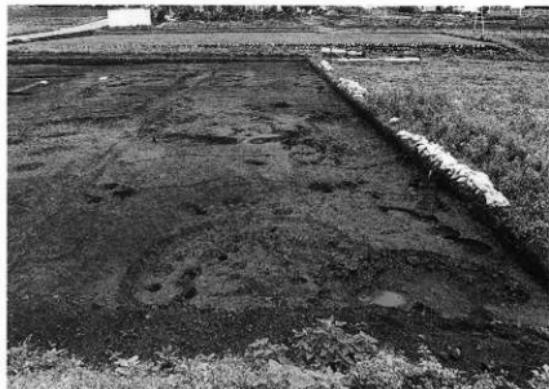
調査区全景（東より）



調査区全景（真上より）



調査区中央



調査区東側



調査区北壁セクション（西側）



調査区北壁セクション（1号溝）

図版 4



1号墳穴（北東より）



1号墳穴・1号土坑（南より）



2号堅穴（南東より）



2号堅穴（北東より）

図版 6



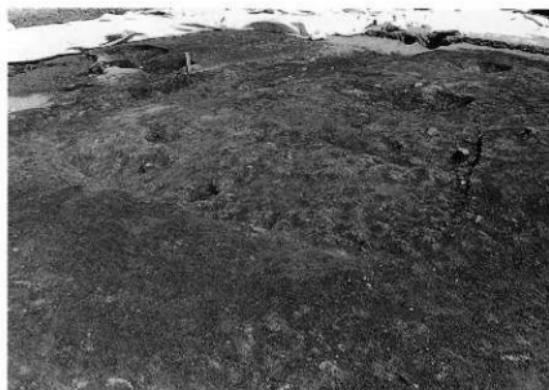
1号住（南より）



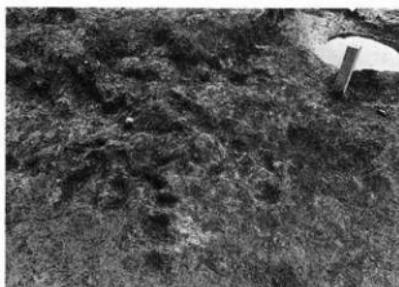
1号住（北より）



2号住（南西より）



2号住（北西より）



2号住カマド（南西より）

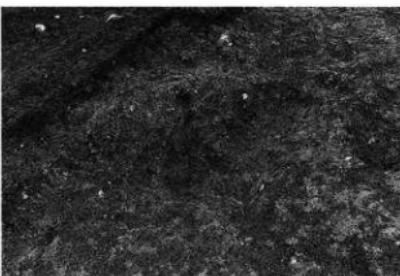


2号住窯出土状況

図版 8



1号土坑（東より）



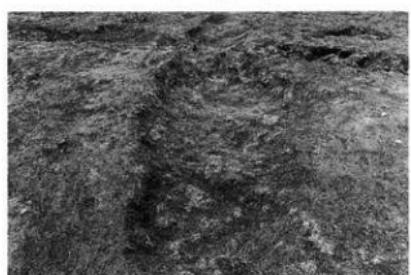
2号土坑（北より）



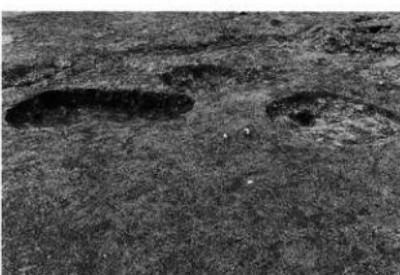
3号土坑（西より）



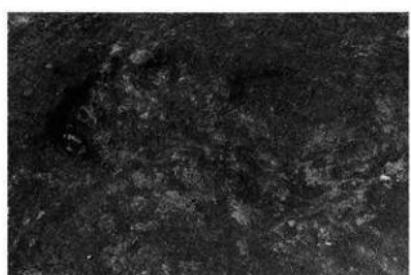
3号土坑（東より）



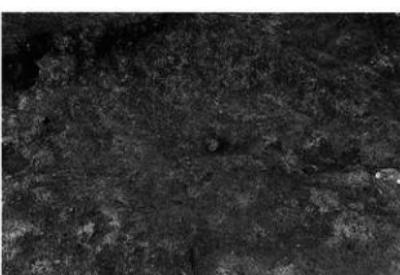
4号土坑（東より）



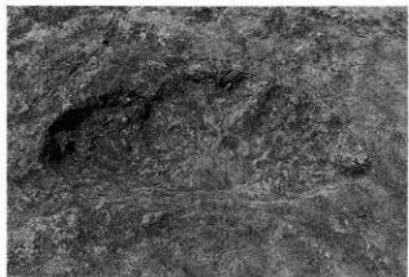
5・6・7号土坑（南東より）



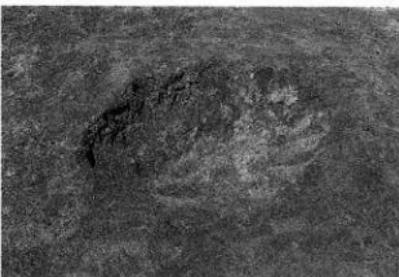
8号土坑（南より）



9号土坑（南より）



10号土坑（南より）



11号土坑（南より）



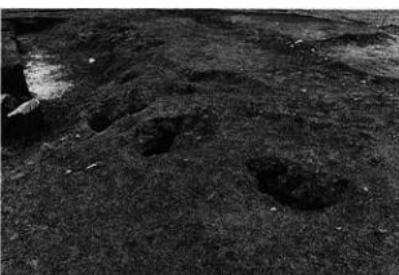
24号土坑（西より）



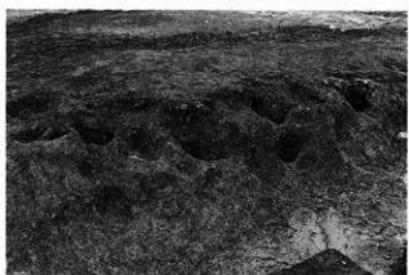
3号溝南側（北より）



3号溝東側ピット群（北より）



3号溝東側ピット群（南より）



3号溝東側ピット群（北西より）



3号溝東側ピット群（北西より）

図版10



2号トレンチ（西より）



3号トレンチ（西より）



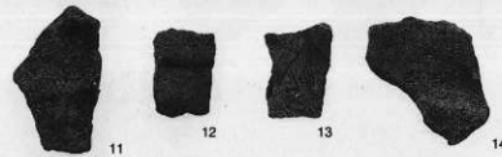
4号トレンチ（西より）



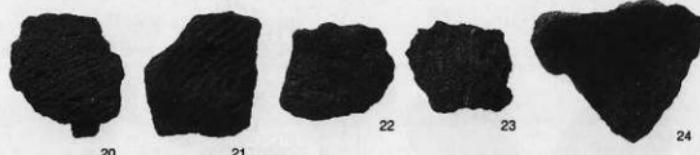
秋田小学校遺跡見学授業①



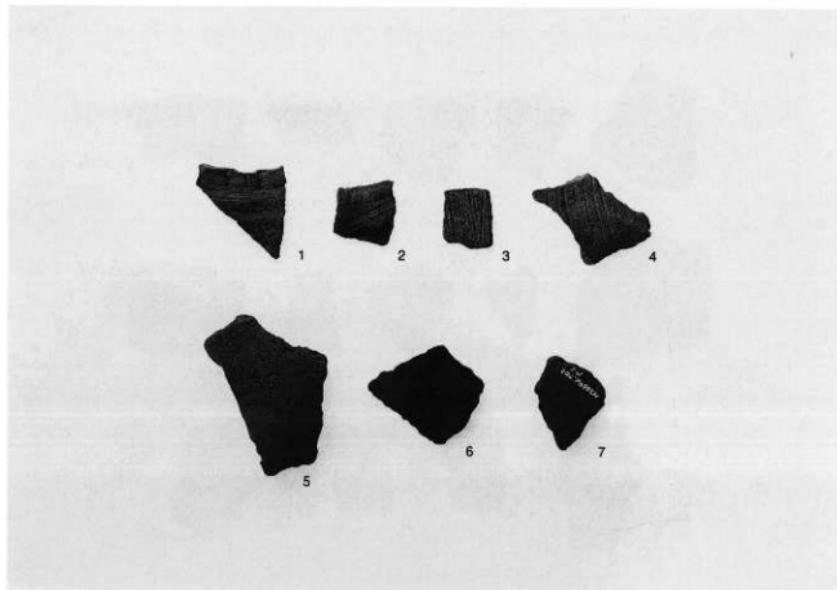
秋田小学校遺跡見学授業②



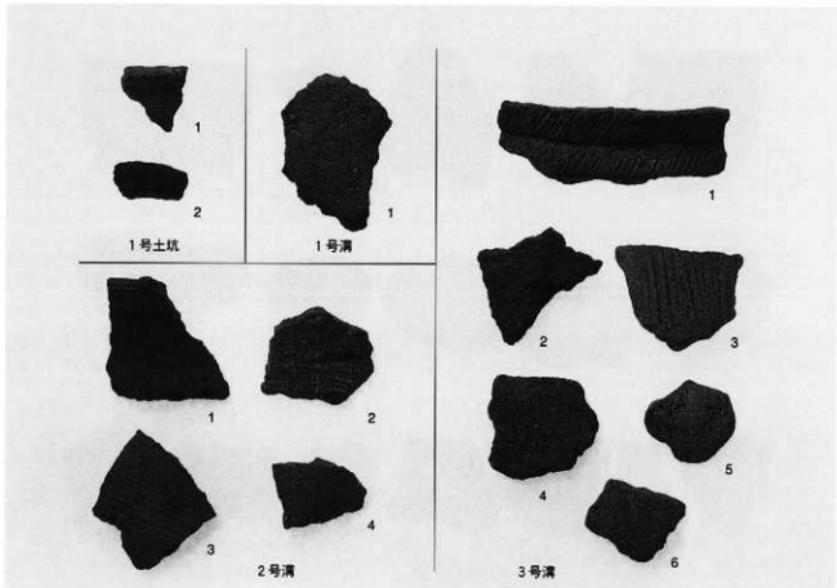
1号竪穴出土土器①



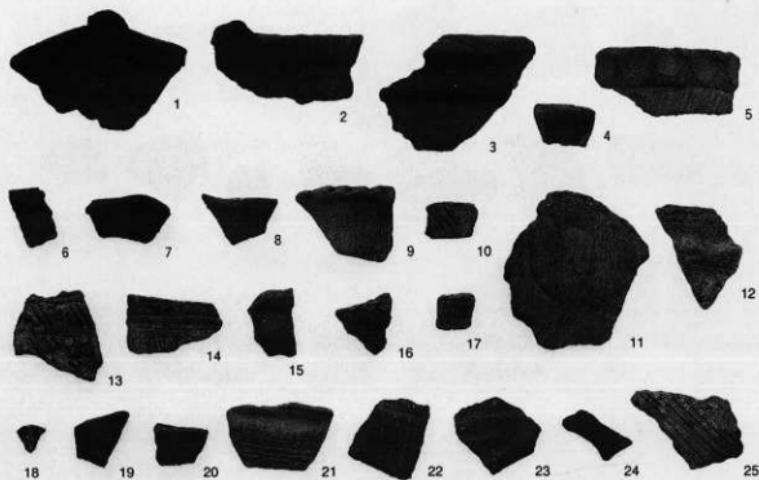
1号竪穴出土土器②



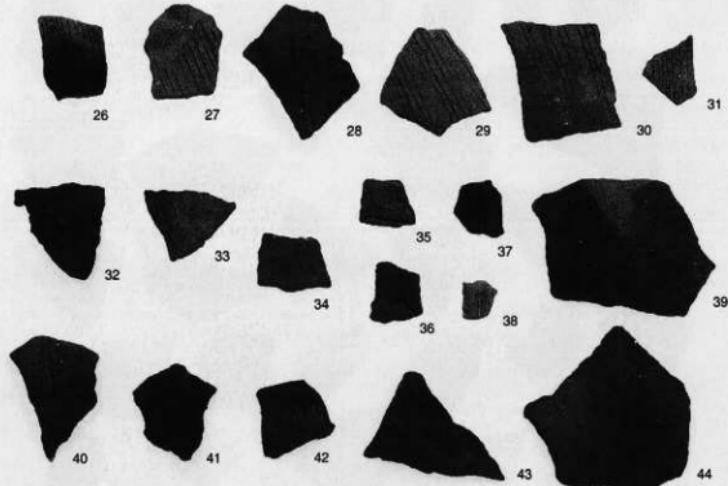
2号竖穴出土土器



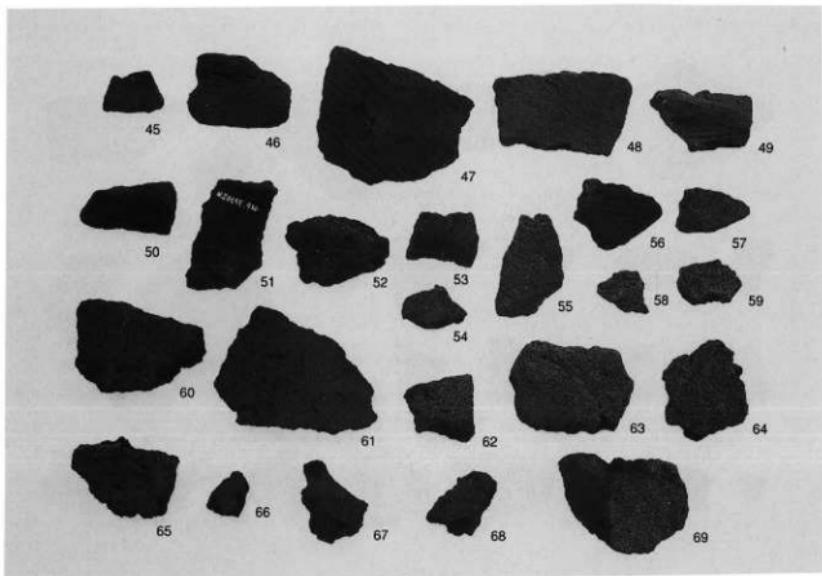
1号土坑・1~3号溝出土土器



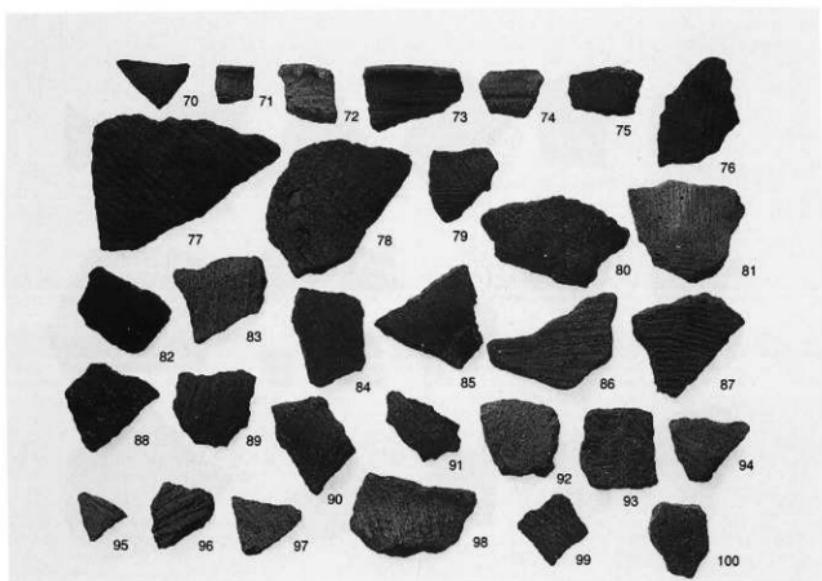
遺構外出土土器①



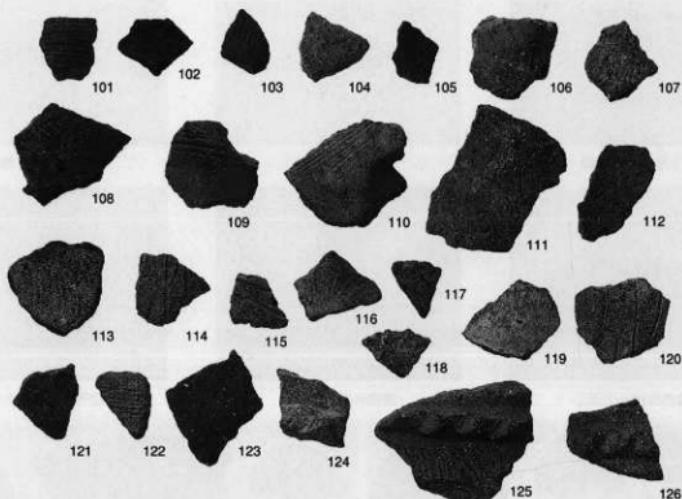
遺構外出土土器②



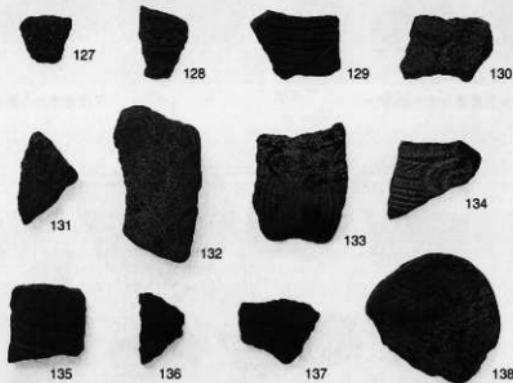
遺構外出土土器③



遺構外出土土器④



遺構外出土土器⑤



遺構外出土土器⑥

图版16



2号住出土土器



3号溝出土土器①



3号溝出土土器②



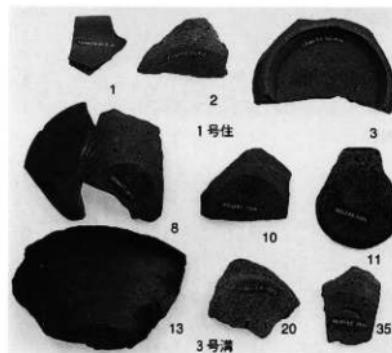
遺構外出土土器①



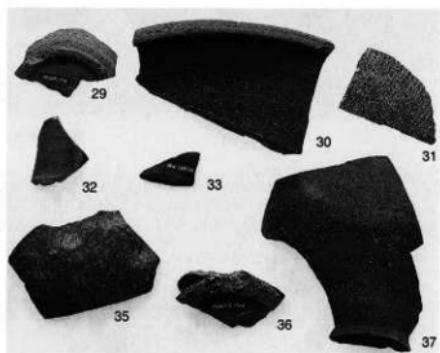
遺構外出土土器②



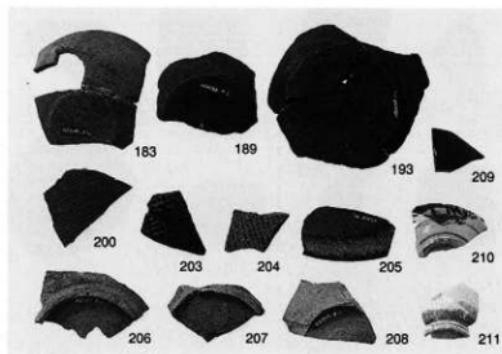
遺構外出土土器③



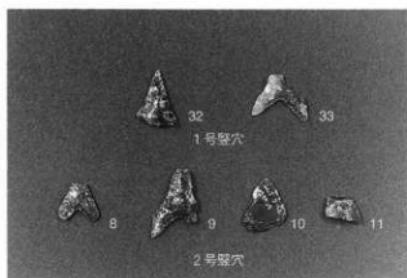
1号住·3号溝出土土器③



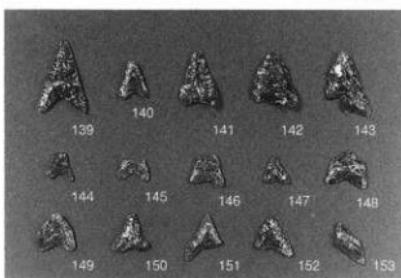
3号溝出土土器④



遺構外出土土器④



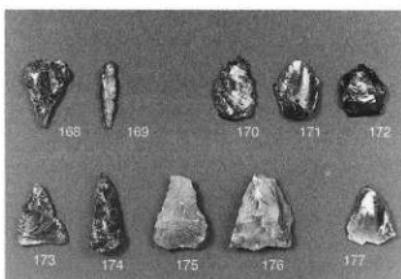
1・2号窓穴出土石器



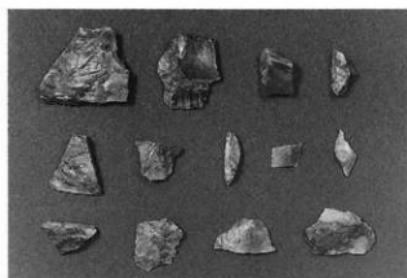
遺構外出土石器①



遺構外出土石器②



遺構外出土石器③



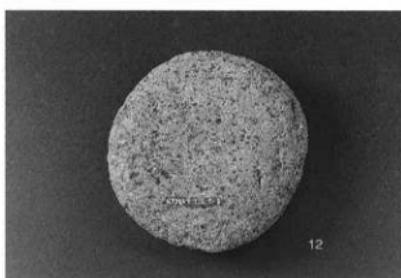
チャート



黒曜石原石

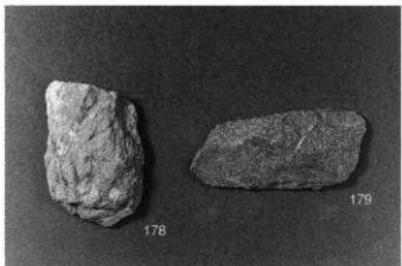


1号窓穴出土石器



2号窓穴出土石器

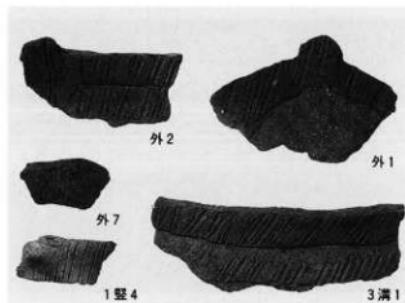
図版18



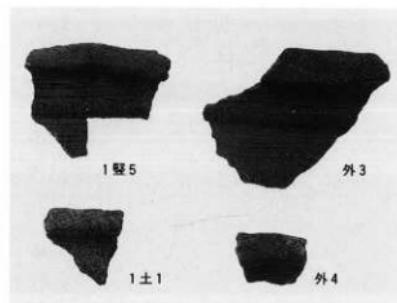
遺構外出土石器④



1号竪穴出土黒曜石



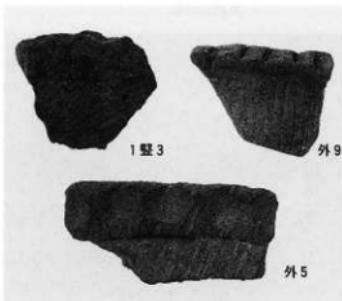
木島式①



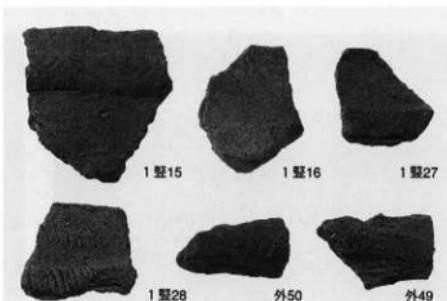
木島式②



第20図遺構外1の内側



木島式③



隆帯付土器

報告書抄録

フリガナ	オヤシキイセキ ダイニジハックツチョウサ
書名	小屋敷遺跡 第2次発掘調査
副題	宅地造成とともになう埋蔵文化財発掘調査
シリーズ	長坂町埋蔵文化財発掘調査報告書第22集
著者名	村松佳幸
編集・発行機関	小屋敷遺跡調査団 長坂町教育委員会
住所・電話	〒408-0021 山梨県北巨摩郡長坂町長坂上条2575-19 TEL 0551-32-2111
印刷所	ほおずき書籍株式会社 〒381-0012 長野県長野市柳原2133-5 TEL 026-244-0235
発行日	2001年12月
遺跡所在地	山梨県北巨摩郡長坂町大八田3879-1・3880-4
遺跡番号	長坂町 №064
1/25,000地図名 位置・標高	若神子 北緯35° 49' 47" 東経138° 23' 10" 標高704m
調査原因	宅地造成開発事業
調査期間	1999年4月27日～1999年7月2日
調査面積	1,050m ²
主な時代	縄文時代・平安時代
主な遺構・遺物	縄文前期初頭の竪穴2基、平安時代の住居跡2軒、土坑30基、ビット55基、溝3条 縄文前期初頭～後期の土器・石器・黒曜石・チャート、平安時代の土師器・須恵器・灰釉陶器、近世の磁器

長坂町埋蔵文化財発掘調査報告書 第22集

小屋敷遺跡－第2次発掘調査報告書－

2001年12月15日 印刷

2001年12月25日 発行

編集・発行 小屋敷遺跡調査団（長坂町教育委員会内）

〒408-0021 山梨県北巨摩郡長坂町長坂上条2575-19

TEL 0551-32-2111

印 刷 ほねづき書籍株式会社

〒381-0012 長野県長野市柳原2133-5

TEL 026-244-0235（代）

